

学校要覧

2023



独立行政法人国立高等専門学校機構
石川工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Ishikawa College

校歌

作詞 審田真二
作曲 石本一雄

古き歴史の夢を振り
鐘あげほのに鳴りやれる
あいあの東八湖路に
浮かぶ青螺のきらめきて
自由と和平とこしへに
美しい国造らまし
若きいのちに榮あれ
若きいのちに榮あれ

雪しうねにふりおける
高根のひなたさよどりに
見能登の島山かけがらへく
すや越路の玉塔に
世科学技術新しき
紀きよしす
若きいのちのがやけろ
若きいのちのかばやける

北辰遠く光すみ
清うなる陣の台
春風さむかのくわ來し
あふる希望左垣に
理想仰そる希望羽はたげる
若きいのちをたたかねむる
若きいのちをたたかねむる

高島 要 教授 挥毫



校章 —校章の由来—

「石川高専」であることを明確に打出したものの、というアピール性に眼目をおいて「高専」の文字を「石」と「川」で両側から円形に囲み、創造と協調の精神が生きたわかりやすいものにした。

(デザイン：当時金沢美大教授であった 故 板坂辰治先生)



校長 嶋倉 剛
President SHIMAKURA Tsuyoshi

石川工業高等専門学校は、実践的創造的な研究開発型の技術者を養成する高等教育機関であり、独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する全国51の高専の1つです。

5年間の本科(準学士課程)では、創造性や積極性を身につけ、国際社会へも柔軟に溶け込める技術者を、またその後の2年間の専攻科(学士課程)では、より高度な専門知識と技術を身につけた研究開発型の技術者を養成しています。このため、本校のカリキュラムは、技術者として必要な専門科目とそれを理解するための基礎科目、社会人として生きていくために必要な教養科目を計画的に配置するとともに、実験・実習を重視した一貫したものとなっています。さらに、本科4年生から専攻科2年生までの4年間を対象に「創造工学プログラム」[JABEE(日本技術者教育認定機構)認定の国際的に通用する技術者教育プログラム]を設定しています。

現在本校には総計約1,100人の学生が在籍しており、創設以来これまでに送り出してきた本科卒業生はのべ約9,200人になりました。本科卒業生の多くは社会の第一線でグローバルに活躍し、高い評価を得ています。本科卒業後、さらに学びを深化させるため、本校専攻科や大学へ進学する学生も多く、本科卒業後の就職、進学の比率はほぼ6対4となっています。就職については、地元志向の学生がいる一方で、全国規模の企業を選択する学生も多数います。

また、本校の持つ教育・研究機能を活かして、地域と協同したまちづくり、環境保全活動などはもちろん、共同研究や技術相談、先端技術の地域産業への移転などにより地域社会や一線の技術者を支えていくことも、本校の重要な役割です。社会人向けの公開講座、小中学生向けの出前授業などによる地域貢献、科学技術立国への貢献にも積極的に取り組んでいます。

我が国の少子高齢化や地球規模の気候変動、感染症まん延さらには世界的な政治経済の激動などに対応し、未来にわたり社会が安定して豊かに維持発展していくためには、新たな技術を生み出し、人々に安心感をもって受け入れられるような社会実装に繋げていくことが不可欠です。

大きく変化する今日を実践的創造的に切り拓いていく技術者を、石川高専は育て支えています。

The National Institute of Technology, Ishikawa College, is an institution of higher education that trains engineers for practical and creative research and development, and is one of the 51 national colleges of technology established under the National Institute of Technology.

Under the main five-year engineering education (associate bachelor's course), we instill in students an imagination and a positive attitude so that they may be flexible enough to merge into an increasingly internationalized society, and in the additional two-year advanced course (bachelor's course) we instill specialized knowledge and technical skills that are prerequisites for promising engineers working in research and development. With this in mind, our curriculum is a systematic arrangement of specialized subjects necessary for engineers, basic subjects for understanding those specialized subjects, and liberal arts subjects necessary for living as a member of society, with a consistent emphasis on experiments and practical training. Further, the four-year "general and creative engineering program" spanning the 4th and 5th year of the associate bachelor's course and the two years of the advanced course has been acknowledged as complying with the JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education) accreditation system.

The school currently has a total of approximately 1,100 students enrolled, and 9,200 students have graduated since its establishment. Many of our graduates are active globally on the front lines of society and are highly regarded. Approximately 60% of the graduates of the course gain immediate employment and about 40% of them proceed to seek higher education in our major courses or universities. Some of those who find employment prefer to work locally, while many others choose to work for national companies.

Additionally, we also utilize the school's educational and research functions to play a pivotal role in supporting local communities and front-line engineers through joint research, technical consultation, and the transfer of innovative technology to local industries, not to mention community development and environmental conservation activities in cooperation with the local community. We also actively contribute to the local community through open lectures for working people and visiting classes for elementary and junior high school students, as well as contributing to the nation's development as a science and technology powerhouse.

Creating new technologies and socially implementing them so that they will be accepted by people with a sense of security is critical to combat Japan's declining birthrate, aging population, global climate change, the spread of infectious diseases, and the global political and economic upheavals, and maintain and develop a stable and prosperous society in the future.

The National Institute of Technology, Ishikawa College will nurture and support engineers who will practically and creatively find ways to handle today's dynamic world.

目 次 Contents

		頁
本校の精神（こころ）	Spirit	1
沿革	History	2
特色	Characteristics	3
教育理念・目標	Educational Doctorine & Goals	4
三つの方針と学修成果の評価に関する方針	Diploma, Curriculum, Admission & Assessment Policy	5
外部機関による評価	Evaluation and Accreditation from External Organization	12
教育点検改善システム	Educational Development System	13
教職員数	Number of Staff	14
役職員	Executives	14
歴代校長	List of the Presidents	14
名誉教授	Professors Emeritus	15
運営組織	Organization Chart	15
学科紹介	Departments	
一般教育科	Department of General Education	16
機械工学科	Department of Mechanical Engineering	18
電気工学科	Department of Electrical Engineering	20
電子情報工学科	Department of Electronics and Information Engineering	22
環境都市工学科	Department of Civil Engineering	24
建築学科	Department of Architecture	26
専攻科	Advanced Engineering Courses	28
創造工学プログラム	Multidisciplinary Engineering	29
教育課程	Curriculums	30
共同利用施設	Joint-use Facilities	
情報戦略基盤センター	Information Strategy and Technology Center	38
図書館・視聴覚教室	Library and Audio Visual Classroom	39
トライアル研究センター	TRIAL Research Center	40
技術教育支援センター	The Technology and Education Support Center	41
機械実習工場	Machine Shop	41
風洞実験棟	Wind Tunnel	42
高電圧実験棟	High Voltage Laboratory	42
福利施設	Welfare Facilities	43
学生寮	Dormitory	44
学生	Students	45
学生会	Student Council	48
進路状況	Graduates	49
教員の研究活動	Research Activities	52
地域との連携	Regional Cooperation	53
国際交流	International Exchange	54
財務	Finance	55
学校配置図	Campus Map	56
土地・建物	Land & Buildings	56
交通アクセス	Access	57

本校の精神（こころ）

Spirit

本校創立50周年を機会に、本校が50年間の歴史の中で積み上げてきた教育の在り方を振り返り、これを銘記することで、本校の教育精神の永遠性を確認したものです。未来に向けて、学生諸君が、「夢に向かって 磨き 創り 拓く」ことを願いこれを標語とし、この標語のもとに精神の趣旨をわかりやすく伝えることとして、以下のメッセージを「高専教育之碑」に刻みました。

On the occasion of this monument celebrating the 50th anniversary of the founding on this school, we looked back at the state of education over the 50 years of accumulated history and testified to the eternal nature of the school's academic spirit. We took on the slogan of "Towards our dreams, hone, create, lead" as our wish for our students' future and formulated the following message based on that slogan as a simple way of expressing the meaning of that spirit.



高専教育之碑

夢に向かって 磨き 創り 拓く

高専教育の特色は、高等学校と大学工学系分野で学ぶ科目をバランスよく配置した5年一貫の教育課程により、確かな教養と体系的な専門知識を身につけた、創造性豊かな実践的技術者を育成することにある。

石川工業高等専門学校は1965年にこの地に設立され、これまでに7500有余の卒業生を輩出した。創立五十周年を迎えた今、先輩諸氏が築き上げた本校の信頼と良き伝統を受け継ぐと共に、さらに、次の50年に向けて新たな発展を創り上げていくことを誓うものである。

本校に学ぶ学生諸君は、高い理想と将来への夢を持ち続けることを期待する。その夢の実現に向かって、学識のみならず知性や人間性を磨き、創造性豊かな技術者として、人類の未来を切り拓いていくことを願う。

2015年11月13日 石川工業高等専門学校



沿革

History

昭和 40 年(1965)	4月 1日	石川工業高等専門学校(機械工学科, 電気工学科, 土木工学科)設置
	4月 24日	第1回入学式挙行
昭和 41 年(1966)	3月 24日	校舎管理棟, 低学年寮(第1寮)新営工事竣工
昭和 42 年(1967)	3月 29日	電気・土木棟, 体育館, 高学年寮(第2寮)竣工
	11月 30日	機械棟, 実習工場, 高電圧実験棟および高学年寮増築工事竣工
昭和 43 年(1968)	4月 1日	3学期制が2学期制に切り替え
昭和 44 年(1969)	1月 20日	武道場新営工事竣工
	10月 1日	校歌制定
昭和 45 年(1970)	4月 1日	建築学科新設
昭和 46 年(1971)	3月 26日	建築学科棟・低学年寮・寮食堂・寮浴室新営工事竣工
昭和 48 年(1973)	3月 23日	図書館新営工事竣工
昭和 50 年(1975)	3月 25日	電子計算機室工事竣工
	10月 3日	創立 10 周年記念式典挙行
	10月 30日	野球場新営工事竣工
昭和 51 年(1976)	10月 30日	テニスコート新営工事竣工
昭和 54 年(1979)	1月 10日	合宿研修施設(自彊館)新営工事竣工
	12月 25日	第2体育館新営工事竣工
昭和 56 年(1981)	2月 25日	福利施設(養高館)新営工事竣工
昭和 57 年(1982)	3月 5日	風洞実験棟新営工事竣工
昭和 58 年(1983)	3月 25日	共通教室棟新営工事竣工
昭和 60 年(1985)	11月 9日	創立 20 周年記念行事挙行
昭和 61 年(1986)	4月 1日	編入学受入開始
昭和 62 年(1987)	4月 1日	電子情報工学科新設
昭和 63 年(1988)	11月 30日	電子情報工学科棟(5号館)新営工事竣工
平成 3 年(1991)	11月 18日	産官学交流懇談会開始
平成 4 年(1992)	4月 1日	学校5日制導入
平成 5 年(1993)	4月 1日	電子計算機室を情報処理センターに改組
平成 6 年(1994)	4月 1日	土木工学科を環境都市工学科に改組
平成 7 年(1995)	10月 18日	創立 30 周年記念式典挙行
平成 8 年(1996)	4月 12日	女子寮開寮式
平成 11 年(1999)	2月 1日	地域共同技術相談室開設
平成 12 年(2000)	2月 8日	トライアル研究センター(地域共同テクノセンター)設置
	4月 1日	専攻科(電子機械工学専攻・環境建設工学専攻)設置
平成 13 年(2001)	2月 28日	トライアル研究センター(地域共同テクノセンター)および一般教育棟新営工事竣工
平成 14 年(2002)	2月 6日	技術振興交流会設立
	3月 7日	運営懇話会(運営協議会を経て現在の運営諮問会議となる)設置
	3月 20日	専攻科棟新営工事竣工
平成 16 年(2004)	4月 1日	独立行政法人へ移行
	4月 7日	生活協同組合営業開始
平成 18 年(2006)	1月 24日	津幡町連携協定締結
	5月 8日	JABEE 認定
平成 19 年(2007)	1月 12日	中国杭州職業技術学院と学術交流協定締結
平成 20 年(2008)	4月 1日	技術教育支援センター設置
	5月 20日	内灘町連携協定締結
平成 21 年(2009)	3月 27日	金沢市連携協定締結
	7月 13日	中国大連職業技術学院と学術交流協定締結
平成 22 年(2010)	10月 29日	宙(そら)寮新営工事竣工
平成 24 年(2012)	6月 26日	中国大連工業大学と学術協定締結
平成 27 年(2015)	11月 13日	創立 50 周年記念式典挙行
平成 28 年(2016)	10月 6日	台湾・明新科技大学と学術交流協定締結
	11月 19日	ベトナム・ハノイ建設大学と学術交流協定締結
令和 元 年(2019)	5月 29日	石川県と防災分野における連携に関する協定締結
	7月 10日	台湾・国立嘉義大学理工学院と学術交流協定締結
令和 4 年(2022)	3月 15日	加賀市包括連携協定締結
	3月 25日	正門東側法面安全対策工事竣工
令和 5 年(2023)	4月 1日	情報処理センターを情報戦略基盤センターに改組



特色

Characteristics

高専制度は、我が国経済の高度成長を背景に、昭和37年に工業発展を支える技術者の養成を目指し、大学・短期大学と並ぶ高等教育機関として創立されました。

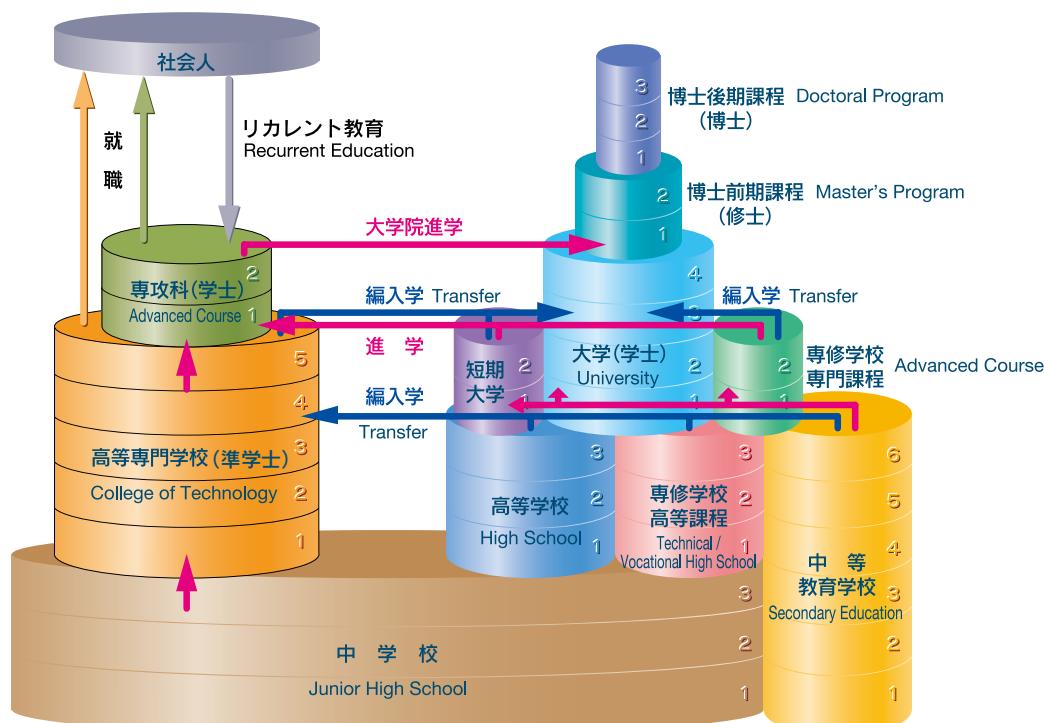
中学校卒業という若い世代で入学し、5年間一貫した専門職業教育を行うもので、本校では、理論的な基礎の上に立っての実験・実習・実技を重視した実践的技術教育、少人数クラス編成によるきめ細かな教育指導を行うことにより、創造性、積極性等を身につけさせるとともに、国際社会へ柔軟に溶け込むことができるよう、教育課程を考慮しています。

近年の科学技術の高度化、情報化、国際化に対応できる、より高度な専門知識と技術を身につけた研究開発型の技術者を養成するため、5年間の本科課程に加え、平成12年に2年間の専攻科を設置しました。5年間の本科の課程を卒業した者に対して準学士の称号が与えられ、2年間の専攻科を修了し、大学改革支援・学位授与機構審査に合格した者に対して学士の学位が与えられます。また、平成15年から、本科4年から専攻科2年までの4年間を対象にした創造工学プログラム（平成18年、JABEE（日本技術者教育認定機構）認定）を設定し、技術の進展に対応した技術者の育成を目指しています。

In 1962, with striking economic progress in the background, the education system of the College of Technology was founded as one of the higher educational institutions among universities and junior colleges, aiming to foster the education of capable engineers who would support industrial development.

The College of Technology accepts young students from junior high schools and offers them an integrated specialized technical education for five years. We provide students with technical education, placing much importance on experiments, practice, and practical skills based on theoretical foundation. We teach students with careful guidance in small groups, and help students acquire creativity and a positive attitude. In addition, we arrange curriculums so as to make the students flexibly adapt themselves to international society.

A two-year Advanced Engineering Course based on the regular courses was established in 2000 in order to help engineering students attain current standards of information-oriented society where technology is highly developed and internationalized. Associate degrees are awarded to students who have completed the five-year program. Most graduates in the two-year advanced course receive bachelor's degrees from the National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education (NIAD-QE). We aim to produce graduates with a more finely-honed set of research and development skills and technical knowledge. We also started a Creative Engineering Program in 2003, (this program was accredited by JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education) in 2006) which is a four-year educational program for students in the 4th year of the regular course who will continue to study and complete the two-year Advanced Course. This program is aimed at training students to become engineers who can contribute to future technical developments.



教育理念・目標

Educational Doctorine & Goals

■ 基本理念

人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関

石川工業高等専門学校は、この基本理念のもと下記の4つの教育理念を掲げる。高等専門学校においては教育と研究は不可分であり、両者の適切なバランスのもとにこれを実施する。

■ Fundamental Principles

The fundamental principle of this school is to be an institution of higher education and research which trains well-rounded, creative engineering students to attain practical skills based on research and development. Education and research are inseparable at Kosen and we strive to keep the proper balance between them. The educational doctrine under which we train engineering students is described as follows:

■ 教育理念

- 1) 豊かな教養と誠実な人間性を育む教育
- 2) 創造的な能力と意欲を育む教育
- 3) 高度な科学技術に対応できる実践力を育む教育
- 4) 地域社会への关心と国際的な視野を育む教育

教育理念の実現のために下記の教育目標（養成すべき人材像）を具体的指標として掲げる。

■ Educational Doctrine

- 1) To help students become well - rounded individuals with open minds.
- 2) To equip students with creativity and positive attitudes.
- 3) To equip students with practical skills to deal with high technology.
- 4) To encourage students to have interest in both regional and international issues.

The educational goals corresponding to the doctrine and the sort of engineering students we want to graduate are described as follows:

■ 教育目標（養成すべき人材像）

- 1) 幅広い視野を持ち、国際社会や地球環境を理解できる技術者
- 2) 社会的責任感と技術者としての倫理観を備えた技術者
- 3) 問題や課題を完遂するための気概と指導力、協調性を備えた技術者
- 4) 好奇心や目的意識・職業意識が旺盛で、十分な意欲を持つ技術者
- 5) 確実な基礎学力と体験や実技を通して備えた実践力を持つ技術者
- 6) 自ら問題を解決する能力（事象の理解、問題の発見、課題の設定・解決）を持つ技術者
- 7) 学習や研究の成果を論理的に記述し、発表し、討議する能力を持つ技術者
- 8) 学んだ知識を柔軟に活用できる応用力を持つ技術者
- 9) 地域との交流を通して積極的な社会参加の意識を持つ技術者
- 10) 相互理解の上に立ったコミュニケーション能力を持つ技術者

■ Educational Goals

We aim to create engineers :

- 1) to see international society and global environments from a broader point of view.
- 2) with a strong sense of social responsibility and engineering ethics.
- 3) with a strong will, leadership and cooperative abilities to solve problems and accomplish tasks.
- 4) to show positive attitudes and great curiosity with a sense of purpose and high professionalism.
- 5) equipped with solid basic academic and practical skills nurtured by practical application of theories.
- 6) capable of understanding phenomena, discovering and solving problems, and accomplishing tasks by themselves.
- 7) capable of logically describing, presenting, and discussing research findings.
- 8) capable of flexibly applying what has been learned.
- 9) capable of participating in society through collaboration with local industries.
- 10) with excellent communication skills.

三つの方針と学修成果の評価に関する方針

Diploma, Curriculum, Admission & Assessment Policy

■ 本科のディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）

1 本校の目的

本校は、教育基本法の精神にのっとり、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成することを目的としています。

2 学習目標

1) 全学科共通の学習目標

- ・技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける。
- ・意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる。
- ・幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できる。
- ・自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる。

2) 各学科の学習目標

・機械工学科

材料、エネルギー、計測制御、生産加工などの知識と技術を習得し、人・社会・環境が調和する技術を創生することができる。

・電気工学科

エネルギー、エレクトロニクス、制御、通信、コンピュータ等の知識と技術を習得し、「ものづくり」や課題の解決に応用できる。

・電子情報工学科

情報・電子・通信などの基礎知識と技術を習得し、システム設計・開発を行うことができる。

・環境都市工学科

くらしを支える施設の整備、防災、環境保全に関する知識を習得し、より良い都市づくり目的とした課題に対処することができる。

・建築学科

建築を取りまく文化や技術の基礎知識を習得し、住生活から地域・都市環境にわたる建築への様々な課題の解決に応用できる。

3 教育の特色

1) 機械工学科

機械工学科では、機械の動作原理や材料・構造・強さ・しくみを座学・実験・実習を通して、深く理解できるようカリキュラムが設定されています。さらに、修得した知識や技術を活用して、独創的なアイディアを発想し、設計・製作・評価までを自ら行うことのできる技術者を育てています。

2) 電気工学科

電気工学科では、電気・電子工学をはじめ、エネルギー、通信、半導体デバイス、情報など広い分野にわたる専門的「知識」と「技術」を身につけ、こういった分野で活躍できる技術者を育成することを目指しています。

3) 電子情報工学科

電子情報工学科では、電子工学、情報工学、通信工学の豊富な知識をもちながら、これらを融合した技術を駆使しシステム思考のできる人材を育成すると同時に、人や環境も視野に入れた未来志向の電子情報工学技術者を育てるこことを目指しています。

4) 環境都市工学科

環境都市工学科では、私たちの生活に大切な都市施設などの整備に関する技術を学ぶことを目的としています。すなわち、道路や橋、港湾などの公共施設の建設技術を身につけ、さらに、自然環境との調和やうるおいのある生活環境も考えることのできる広い視野を持つた技術者の育成を目指しています。

5) 建築学科

建築学科では、幅広い知識と豊かな創造力をもつ建築技術者を養成することを目指し、専門の基礎科目を重視する一方、計画・構造・環境のコンピュータ処理技術のほか、新しい時代への対応を学ぶなど、幅広い知識を習得できるよう力を注いでいます。

4 本科の卒業要件

卒業の判定については、学則第35条で定めるとおり全学年の課程を修了した者を卒業と認めますが、具体的には、以下のすべての要件を満たしていることが条件となります。

なお、必修科目的修得だけでも学習目標は達成されるようにカリキュラムを編成していますので、卒業認定を以て本校が掲げる全学科共通の学習目標及び各学科の学習目標を十分達成したと認めることができます。

【卒業要件】

- 1) 各科目の年間授業時間数の4分の3以上出席していること。
ただし、病気・事故等やむを得ない事由によると認められた長期欠席の場合は、卒業の基準が緩和されます。
- 2) 最終学年まで修得すべき科目的単位を修得していること。
- 3) 卒業研究の評価が合格であること。
- 4) 学校行事への出席が良好であること。

■ 本科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

1 教育課程編成の基本的な考え方

教育課程編成にあたっては、本校が掲げる全学科共通の学習目標及び各学科が掲げる学習目標に照らして、学生が必要な基礎学力や専門知識等を無理なく、また効率よく修得できるよう全体の授業科目数及び単位数を適切に配置しています。

なお、授業科目には選択科目も設定されていますが、必修科目的修得だけでも学習目標は達成されるように教育課程を編成していますので、卒業認定を以て学習目標を達成したと認めることができます。

2 科目構成と学習目標との対応

本校の教育課程は、高専機構モデルコアカリキュラム（高専 MCC）に準拠し、「基礎的能力」、「専門的能力」、「分野横断的能力」を習得するために、授業科目と特別活動から構成される。さらに、授業科目は一般科目と専門科目に大別されます。学習目標との対応は以下のとおりです。

- (1) 技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につけ、各学科の学習目標を達成できるように下記のとおり教育課程を編成しています。

技術者として必要な基礎学力を身につけるため、高専 MCC に準拠した「基礎的能力」、「分野横断的能力」を修得するための授業科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。一般科目は高等学校と同じ科目や大学の 1・2 年次で履修する科目に相当する授業科目から構成されており、専門の学問や技術を修得するために必要な基礎学力の養成と、社会人として必要な一般教養の修得を目指しています。

また、技術者として必要な専門的知識を身につけ、各学科の学習目標（下表参照）を達成するために必要な専門的授業科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています（高専 MCC の「専門的能力」に対応する）。

- (2) 意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができるよう下記のとおり教育課程を編成しています。

専門科目は各学科における基礎的な学問や技術、その応用に関する科目で、特に実験・実習・製図・卒業研究などを通じて、自主的に創造性豊かな技術者となるための資質を養います。簡単な課題の解決からスタートし、学年進行に伴って徐々に複雑な課題に取り組むよう実験・実習・製図・卒業研究の中で課題テーマを設定しています。特に最後まであきらめずに取り組むことを重視しています。

また、特別活動は第1学年から第3学年で実施し、有意義な学生生活をおくるために必要な生活習慣を身につけます。さらに、各種行事を計画・実施することにより、学生の自主性や創造力、根気強さ、学科を横断した協調性などを養います。

- (3) 幅広い視点から自らの立場を理解し、地域・国際社会や環境に配慮できるよう下記のとおり教育課程を編成しています。

幅広い視点から自らの立場を理解できるよう社会系科目やコンピュータリテラシーなどの科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。また、地域課題解決等をテーマとした課題に取り組むことにより、地域・国際社会や環境に配慮できる人材を育成します。さらに国際社会を理解する上で必須の外国語（英語）科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。

- (4) 自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができるよう下記のとおり教育課程を編成しています。

自分の考えを正しく表現できるよう国語科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。また、各学年で取り組む課題について意見交換し、発表する機会を繰り返し設けることによりプレゼンテーション能力を育成します。

<機械工学科>

機械工学科の学習目標を達成するために下記のとおり教育課程を編成しています。

材料、エネルギー、計測制御、生産加工などの知識と技術を習得するため、1 年生から 5 年生までに多くの専門科目を配置しています。社会に対する技術の責任を学ぶための文理融合科目や、福祉、環境、ロボットなどをテーマとした課題解決型の実験・演習に加え、卒業研究を通して人・社会・環境が調和する技術を生み出す応用力を身につけられるようにしています。

<電気工学科>

電気工学科の学習目標を達成するために下記のとおり教育課程を編成しています。

エネルギー、エレクトロニクス、制御、通信、コンピュータ等の知識と技術を習得するために、1 年生から 5 年生までに多くの専門科目を配置しています。実験や卒業研究を通して、専門の知識と技術を「ものづくり」や課題の解決に応用できるようにしています。

<電子情報工学科>

電子情報工学科の学習目標を達成するために下記のとおり教育課程を編成しています。

情報・電子・通信などの基礎知識と技術を習得するために、1 年生から 5 年生までに多くの専門科目を配置しています。実験や演習、卒業研究を通して、システム設計や開発を行うことができる能力を身につけられるようにしています。

<環境都市工学科>

環境都市工学科の学習目標を達成するために下記のとおり教育課程を編成しています。

くらしを支える施設の整備、防災、環境保全に関する知識を習得するために、1 年生から 5 年生までに社会のニーズに合わせバランス良く多くの専門科目を配置しています。実験実習や設計製図などの実践教育に加え、卒業研究を通して、環境都市分野の様々な課題を解決できる技術力・創造力を身につけられるようにしています。

<建築学科>

建築学科の学習目標を達成するために下記のとおり教育課程を編成しています。

建築を取りまく文化や技術の基礎知識を習得するため、1 年生から 5 年生までに多くの専門科目を配置して、創造性を育んでいきます。住生活の課題を設計演習で取り組み、学年が上がるにつれて地域・都市環境にわたる知識も習得していきます。卒業研究を通して建築への様々な課題の解決に応用できるようにしています。

各学科と高専MCC、学位授与機構専攻の区分との対応

学科名	学科の学習目標	高専MCC	学位授与機構専攻の区分
機械工学科	材料、エネルギー、計測制御、生産加工などの知識と技術を習得し、人・社会・環境が調和する技術を創生することができる。	機械系分野	機械工学
電気工学科	エネルギー、エレクトロニクス、制御、通信、コンピュータ等の知識と技術を習得し、「ものづくり」や課題の解決に応用できる。	電気・電子系分野	電気電子工学
電子情報工学科	情報・電子・通信などの基礎知識と技術を習得し、システム設計・開発を行うことができる。	電気・電子系分野 情報系分野	電気電子工学 情報工学
環境都市工学科	くらしを支える施設の整備、防災、環境保全に関する知識を習得し、より良い都市づくりを目的とした課題に対処することができる。	建設系分野	土木工学
建築学科	建築を取りまく文化や技術の基礎知識を習得し、住生活から地域・都市環境にわたる建築への様々な課題の解決に応用できる。	建築系分野	建築学

3 成績の評価方法に関する方針

科目ごとに設定された到達目標に対して、次の方法で成績評価を行う。

- 講義形式の授業科目においては、試験・小テスト・課題・レポートなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- 実技を伴う授業科目においては、実技テスト・筆記試験・課題・ポートフォリオなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- 実験・実習・製図およびPBL（Project Based Learning）などの実践的科目においては、課題・レポート・発表・ポートフォリオなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文・研究発表などにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。

4 成績の評価および単位認定基準

各科目の成績は、シラバスに基づき総合的に評価します。1~3年次は100点法により50点以上、4~5年次は60点以上であれば合格となり所定の単位を修得できます。

なお成績はS・A・B・C・D・不可の評語で表示し、評点との関係は次のとおりです。ただし、授業科目又は履修形態等によっては、合格又は認定の評語とすることがあります。

(1) 1~3年次

- S(評点90点以上)
- A(評点80点以上~90点未満)
- B(評点70点以上~80点未満)
- C(評点60点以上~70点未満)
- D(評点50点以上~60点未満)
- 不可(評点50点未満)

(2) 4~5年次

- S(評点90点以上)
- A(評点80点以上~90点未満)
- B(評点70点以上~80点未満)
- C(評点60点以上~70点未満)
- 不可(評点60点未満)

■ 本科のアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本校では、教養と工学の基礎を身につけ、創造的能力、高度な科学技術に対応できる実践力、地域社会への関心と国際的な視野を有する人材を育成しています。

1 アドミッション・ポリシー

入学者として次のような学生を求めます。

- 1) 中学校で学んだことを身につけている人
- 2) 特に、数学・理科の基礎学力がある人

また、本科4年次編入学の場合、入学者として次のような学生を求めます。

- 1) 工学の基礎を身につけている人
- 2) 向上心を持ち、より高い目標に向けて努力する人
- 3) 自主性と協調性を持ち、社会貢献する意欲のある人

2 求める学生像：全学科共通

- 1) ものづくりに关心があり、様々な課題に意欲を持って取り組む人
- 2) 社会のルールを守り、向上心を持って学校生活を送る人
- 3) 将来、技術者として社会の発展に貢献したい人

3 それぞれの学科が求める学生像

- | | |
|------------|---|
| 1) 機械工学科 | ・ものづくりに興味があり、創造力豊かな技術者になりたい人
・自動車・飛行機・ロボットなどの機械やシステムに関心がある人
・機械の仕事を通して、エネルギー・環境・福祉などの分野で社会に貢献したい人 |
| 2) 電気工学科 | ・ロボット・コンピュータなどのしくみに興味がある人
・エネルギー・通信・ITなどの生活を支える技術に関心がある人
・最先端技術に関心があり、社会の発展に貢献したい人 |
| 3) 電子情報工学科 | ・コンピュータの原理やプログラミングなどに興味がある人
・情報・電子・通信の融合技術を身につけたい人
・最先端の情報通信技術で社会に貢献したい人 |
| 4) 環境都市工学科 | ・道路・橋・空港・上下水道などの都市づくりに興味がある人
・都市づくりを通して地域社会に貢献したい人
・くらしと自然を守る都市づくりに熱意がもてる人 |
| 5) 建築学科 | ・建築の材料や構造、環境やデザインに興味がある人
・建築を作る過程（設計・施工・管理）に関心がある人
・建築を通して生活環境づくりに貢献したい人 |

4 入学者選抜の実施方法

1) 推薦による選抜

推薦書、調査書および適性検査（数学）・面接の結果を総合して判定します。

2) 学力検査による選抜

学力検査の成績および調査書をもとに総合的に判定します。

学力検査は、理科、英語、数学、国語の4教科について筆記試験（マークシート方式）を行い、各教科100点満点の合計400点満点とします。

1教科でも受検しないと失格（不合格）になります。

3) 帰国子女特別選抜

学力検査の成績、調査書および面接の結果をもとに総合的に判定します。

学力検査は、理科、英語、数学、国語の4教科について筆記試験（マークシート方式）を行い、各教科100点満点の合計400点満点とします。

面接を含み1教科でも受検しないと失格（不合格）になります。

■ 専攻科のディプロマ・ポリシー（修了認定の方針）

専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、より高度な専門知識と技術を教授して、先端技術にも対応できる創造的な技術開発能力を備え、幅広い分野で活躍できる研究開発型技術者の育成を目的としています。

修了判定にあつては、学則第54条で定める要件を満たした者を修了と認定します。

なお、修了時には本校が掲げる専攻科課程共通の学習目標及び電子機械工学専攻、環境建設工学専攻が掲げるそれぞれの学習目標を達成できるよう授業科目が設定されていますので、修了認定を以てそれを達成したと認めることができます。

1) 専攻科課程の学習目標

- ・科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができる。
- ・問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる。
- ・国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる。
- ・実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる。
- ・チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる。

2) 電子機械工学専攻の学習目標

機械、電気、電子、情報などの専門分野に関する高度な技術と専門以外の幅広い知識を修得し、修得した技術を活用することができる。

3) 環境建設工学専攻の学習目標

建設、環境、建築などの専門分野に関する高度な技術と専門以外の幅広い知識を修得し、修得した技術を活用することができる。

■ 専攻科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

1 教育課程編成の基本的な考え方

教育課程編成にあたっては、本校が掲げる専攻科課程の学習目標に照らして、学生が必要な学力や専門知識等を無理なく、また効率よく修得できるよう全体の授業科目数及び単位数を適切に配置しています。

なお、修了時に修得すべき学習目標を満たすよう授業科目が設定されていますので修了認定を以て学習目標の達成と認めることができます。

2 科目構成と学習目標との対応

専攻科の授業科目は、電子機械工学専攻、環境建設工学専攻の共通の一般科目及び専門共通科目と各専攻で異なる専門展開科目から構成されています。専攻科共通のA～E及び各専攻で異なるFの学習目標を達成すべく科目配置が行われています。

本科4,5学年及び専攻科1,2学年を一貫する「創造工学プログラム」を設定しています。このプログラムにおける学習・教育目標は、専攻科課程の学習目標と連関するものとし、科目構成との対応は以下の通りとなります。なお、学位取得申請における分野別必要単位に対しても十分な科目数を確保しています。

＜両専攻共通＞

A. 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力することができるよう下記のとおり教育課程を編成しています。

デザインや創造に必要となる工学基礎力を身に付けるため、①設計システム系、②情報倫理系、③材料バイオ系、④力学系、⑤社会技術系の5つのプログラム科目群を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。また、PBL(Problem-based learning)の経験から創造の喜びを知るための演習系科目を設け、計画・実行、課題解決・ものづくり、データ分析・工学的考察、発表を重視した総合的な学習を展開しています。

B. 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできるよう下記のとおり教育課程を編成しています。

学士の能力を有した技術者として専門工学の知識と能力を身に付けるため、基盤学科の専門展開科目、ならびに数学(情報処理)・物理による理論解析能力を身に付ける科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。

C. 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できるよう下記のとおり教育課程を編成しています。

今後ますます必要となる国際性や、問題解決能力などの涵養を望む社会からの要請に対処すべく外国語によるコミュニケーション能力を身に付ける科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。さらに、語学力の習得を確認するために修了までに「総合英語力到達度試験」に合格することを義務付けています。

文化の継承や健康の増進は持続可能な社会へ向けた共通課題であり、それらに対処するためのリベラルアーツ系科目を設けるとともに、現代社会・地域社会、環境問題を理解し対応するための文理融合科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。

D. 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できるよう下記のとおり教育課程を編成しています。

地域企業などが抱える実務上の問題に対する解決法を体得するための方法として、長期のインターンシップを実施しています。また、実務上の問題として、いろいろな環境技術について検討できるよう環境関連科目を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。さらに、C. D. の学習目標に対して、特別研究分野に関連した技術者倫理/環境関連のテーマについてのレポート提出を義務付けています。

E. チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができるよう下記のとおり教育課程を編成しています。

与えられた制約の下で計画的に仕事を進める能力を身に付ける演習系科目を設け、基盤学科の枠を超えた分野横断的なチームプロジェクトを展開しています。

日本語による論理的な記述、コミュニケーションに対処するためのリベラルアーツ系科目を設けるとともに、自主的・継続的に研究に取り組む特別研究を配置し、計画性、論理性、プレゼンテーションスキルを重視した総合的学習を展開しています。なお、特別研究の成果について学会等での外部発表を義務付けています。

<電子機械工学専攻>

F. 機械、電気、電子、情報などの専門分野に関する高度な技術と専門以外の幅広い知識を修得し、修得した技術を活用することができるよう下記のとおり教育課程を編成しています。

機械、電気、電子、情報などのいくつかの工学知識を修得し、幅広い考察ができるよう、準学士課程において基盤として学んだ専門分野の授業科目群と専門分野以外の授業科目群を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。

<環境建設工学専攻>

F. 建設、環境、建築などの専門分野に関する高度な技術と専門以外の幅広い知識を修得し、修得した技術を活用することができるよう下記のとおり教育課程を編成しています。

建設、環境、建築などのいくつかの工学知識を修得し、幅広い考察ができるよう、準学士課程において基盤として学んだ専門分野の授業科目群と専門分野以外の授業科目群を設け、講義形式や演習形式の学習方法により展開しています。

3 成績の評価方法に関する方針

科目ごとに設定された到達目標に対して、次の方法で成績評価を行う。

- 講義形式の授業科目においては、試験の得点や小テスト・課題・レポートなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- 実技を伴う授業科目においては、ポートフォリオ、実技試験、筆記試験、課題などにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- 創造工学演習などの実践的科目においては、課題、レポート、発表、ポートフォリオなどにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。
- インターンシップにおいては、研修態度、理解力、実行力、報告・相談、実習成果、報告書、発表などにより到達度を判定し、派遣企業等からの評価、巡回指導の評価、報告書の評価、プレゼンテーションの評価を総合して成績評価する。
- 特別研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表などにより到達度を判定し、総合的に成績評価する。

4 成績の評価および単位設定基準

シラバスに基づき、100点法により60点以上であれば合格となり所定の単位を修得できます。

なお成績はS・A・B・C・不可の評語で表示し、評点との関係は次のとおりです。ただし、授業科目又は履修形態等によっては、合格又は認定の評語とすることがあります。

S(評点90点以上)	B(評点70点以上～80点未満)	不可(評点60点未満)
A(評点80点以上～90点未満)	C(評点60点以上～70点未満)	

■ 専攻科のアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、より高度な専門知識と技術を教授して、先端技術にも対応できる創造的な技術開発能力を備え、幅広い分野で活躍できる研究開発型技術者の育成を目的としています。

1 アドミッション・ポリシー

入学者として次のような学生を求めます。

- 高等専門学校などにおいて工学の基礎を修得した人
- 幅広い分野の工学知識について学習する意欲のある人
- 国際的に通用する技術者として、社会貢献する意欲のある人

2 入学者選抜の実施方法

1) 推薦による選抜

入学者の選抜は、面接、出身校長から提出された推薦書、調査書およびTOEICのスコアを総合判定して行います。

2) 学力検査による選抜

入学者の選抜は、学力検査、出身校長から提出された調査書、面接を総合判定して行います。

学力検査は、数学及び専門科目について筆記試験を行い、英語については出願時に提出された、TOEICのスコアにより評価します。

3) 社会人特別選抜

入学者の選抜は、面接（業務経験等の概要又は専門科目に関する事実）、出身校長から提出された調査書及びTOEICのスコアを総合判定して行います。

■ 本校のアセスメント・ポリシー（学修成果の評価に関する方針）

本校では、学校全体として教育改善を継続して行うためのアセスメントポリシーを定めています。このポリシーに基づいて表に示す方法により、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーの妥当性の検証、および、学校全体、学科・専攻、科目の3段階で定めた学修成果等の評価を関連部署で行い、その結果をそれぞれの段階にフィードバックすることで教育改善を継続しています。

また、教育改善が、学校全体で継続的に行われていることを「自己点検評価報告書」としてまとめ、自己評価・点検することによりアセスメントポリシーが機能していることを継続的に確認しています。

さらに「自己点検評価報告書」の結果を運営諮問会議で報告し、さらなる改善や課題等について意見を外部から伺うことで学校全体の教育システムのPDCAサイクルが機能していることを確認・検証するとともに、その結果を「外部評価報告書」としてまとめて本校のWebサイトで公開しています。

評価 レベル	入学時 (アドミッション・ポリシー)	在学中 (カリキュラム・ポリシー)	卒業時 (ディプロマ・ポリシー)
学校全体	入試倍率 入学動機に関するアンケート	留年率、中途退学率 卒業生・修了生アンケート 企業アンケート調査	就職率・進学率 卒業生・修了生アンケート 就職先・進学先
学科・専攻	学科・専攻毎の入試倍率	卒業・修了要件達成状況 単位取得状況 GPAによる達成度確認 外部客観テスト(CBT, TOEIC等)	卒業・修了要件達成状況 単位取得状況 GPAによる達成度確認
科目		単位取得状況 授業アンケート 授業の方法や内容・授業計画 (シラバスの内容)	

外部機関による評価

Evaluation and Accreditation from External Organization

1 大学改革支援・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価

高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育研究活動等の総合的な状況（教育研究、組織運営、及び施設設備）について、7年以内ごとに文部科学大臣から認証を受けた評価機関による評価（認証評価）を受けることが義務づけられています。

「認証評価」は、

○大学改革支援・学位授与機構が定める高等専門学校評価基準に基づいて、高等専門学校を定期的に評価することにより、高等専門学校の教育研究活動等の質を保証すること。

○評価結果を各高等専門学校にフィードバックすることにより、各高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てること。

○高等専門学校の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、公共的な機関として高等専門学校が設置・運営されていることについて、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

を目的として実施されています。

本校は、平成19年度、26年度及び令和3年度に独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価を受審し、高等専門学校評価基準を満たしていることの認定を受けています。

併せて本校の教育研究活動等の状況を社会にわかりやすく示すために、評価報告書（評価結果）及び自己評価書を本校ホームページ上で公表しています。



1 Evaluation and Accreditation from the National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

The Colleges of Technology are required to be evaluated and accredited its education and research structures, administrative organization and facilities every less than seven years by the NIAD-QE, which is authorized to conduct the evaluation from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), in order to enhance the level of the education and research activities at the colleges of technology.

Ishikawa College was examined and recognized in 2007, 2014 and 2021 to comply the Standards for the Establishment of Colleges of Technology and other relevant laws and regulations, and to meet the Standards for Evaluation and Accreditation of Colleges of Technology set by NIAD-QE.

2 大学改革支援・学位授与機構による専攻科に関する認定

本校は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による認定専攻科（平成12年4月設置、電子機械工学専攻・環境建設工学専攻）を対象とした審査において、平成17年度に統一して平成24年度に受審し、認定されました。

併せて平成26年度には「学士の学位の授与に係る特例適用」の認定（特例適用専攻科）を申請し、その認定を受けました。平成27年度より、学位申請者はこの制度の適用を受けることになり、これまで同機構が行っていた「試験」が省略され、一定の条件を満たすことにより学士（工学）の学位が授与されます。さらに平成30年度には特例の適用認定を受けた専攻科における教育の実施状況の審査（レビュー）を受審し、認定されました。

2 Accreditation of Advanced Engineering Courses from NIAD-QE

Our Advanced Engineering Courses were accredited both by the National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education (NIAD-QE) in 2000, 2005, and 2012. The courses also received special accreditation from the institution in 2014. Since 2015, the graduates acquire bachelor's degrees from NIAD-QE without examinations from the institution. Furthermore, the courses have been accredited after undergoing the review in 2018 on the implementation status of education in advanced engineering courses that received special accreditation.



3 技術者教育に関する国際認証評価(JABEEによる教育プログラムの認定)

本校は、本科4年生から専攻科修了までの4年間で構成される「創造工学プログラム複合工学修得コース」を設定し、平成18年5月から「工学（融合複合・新領域）関連分野」で工業専門教育の国際認証協定であるワシントン協定加盟組織、日本技術者教育認定機構（JABEE）より国際的に通ずる工業教育機関として認定されています。修了生は、技術者として必要な基礎的知識・能力を修得したことについてJABEEの統一的基準により保証され、国際的に通用する技術者として社会へ果立つことになります。

3 JABEE Accredited Program

In May, 2006, the Multidisciplinary Engineering Course of NIT, Ishikawa College received accreditation from the Japan Accreditation Board for Engineering Education (JABEE).

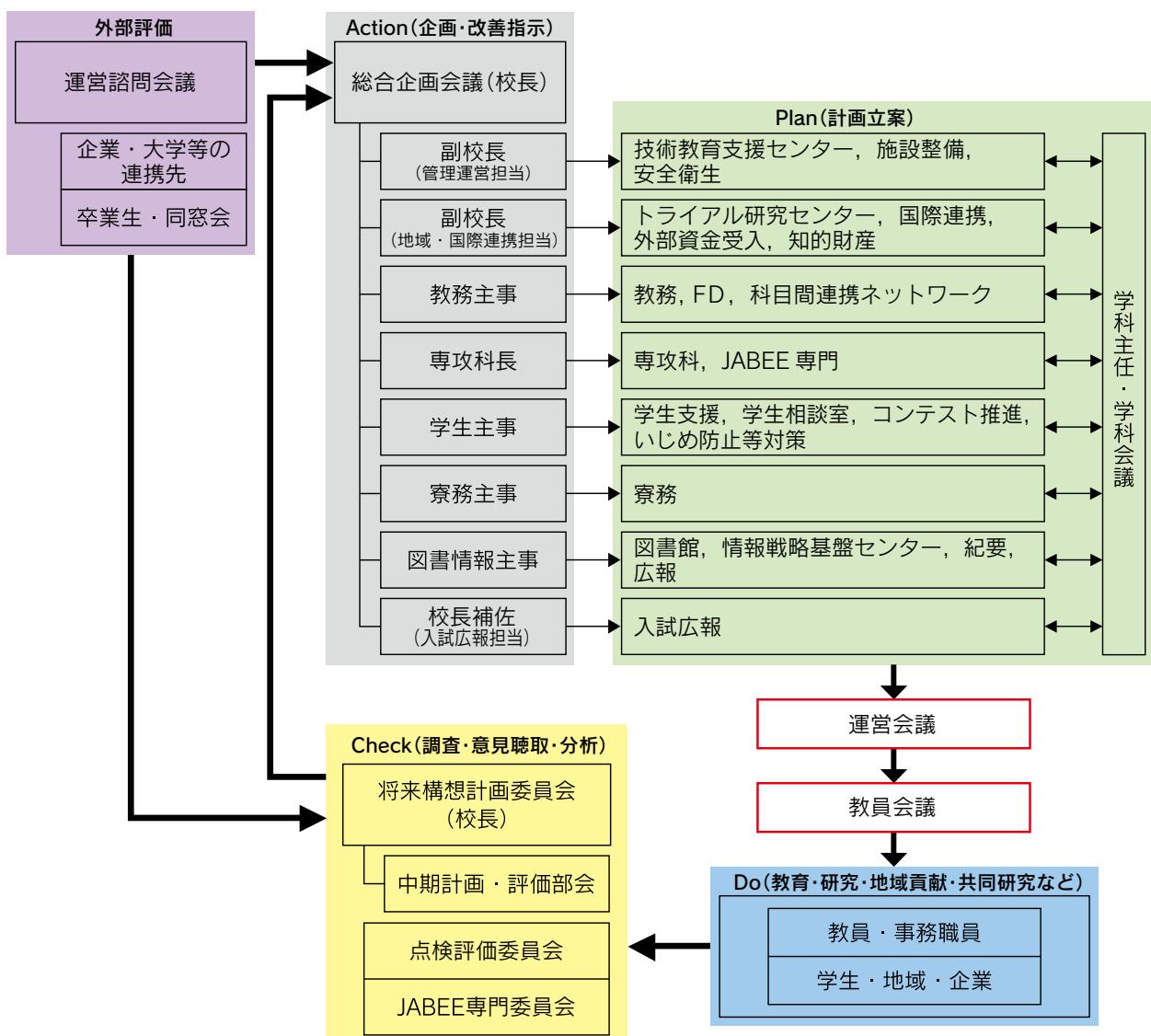
Students who have completed the course are recognized by JABEE's concerted standards as having obtained the fundamental knowledge and skills necessary for engineering, and can thus enter into society as qualified international engineers.



教育点検改善システム

Educational Development System

Plan→Do→Check→Actionの一連のプロセスを経て教育点検および教育改善が行われています。



教職員数

Number of Staff

R5.4.1 現在(人)

区分	教 員										職 員		合 計	
	校 長		教 授		准 教 授		講 師		助 教					
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
校長	1												1	0
一般教育科			10	2	5	4	3						18	6
専門学科			4		4		1		1				10	0
機械工学科			5		1		2						8	0
電気工学科			5		3		1		1				10	0
電子情報工学科			3		4		1	1					8	1
環境都市工学科			4	1	3		1	1					8	2
建築学科			1		3		1	1						
計	1	0	31	3	20	4	9	2	2	0	0	0	63	9
事務部											12	15	12	15
技術教育支援センター											7	4	7	4
合計		1		34		24		11		2		38		110

役職員

Executives

R5.4.1 現在

役 職	氏 名	役 職	氏 名
校長	嶋倉 剛	電子情報工学科主任	長岡 健一
副校長(管理運営担当)	富田 充宏	環境都市工学科主任	津田 誠
副校長(地域・国際連携担当)	道地 慶子	建築学科主任	村田 一也
校長補佐(教務主事)	義岡 秀晃	図書館長	佐野 陽之
校長補佐(学生主事)	畔田 博文	情報戦略基盤センター長	松本 剛史
校長補佐(寮務主事)	岩竹 淳	トライアル研究センター長	熊澤 栄二
校長補佐(図書情報主事)	佐野 陽之	技術教育支援センター長	富田 充宏
校長補佐(専攻科長)	山田 悟	学生相談室長	佐々木 香織
校長補佐(入試広報担当)	徳井 直樹	事務部長	本芳則
一般教育科主任	富山 正人	総務課長	龜田 潤
機械工学科主任	堀 純也	学生課長	河岸 孝政
電気工学科主任	上町 俊幸		

歴代校長

List of the Presidents

在籍期間	氏名	在籍期間	氏名
昭和40.4.1～昭和48.4.1	永井時一	平成10.4.1～平成16.3.31	松村文夫
昭和48.4.1～昭和54.4.1	三輪武雄	平成16.4.1～平成23.3.31	金岡千嘉男
昭和54.4.1～昭和61.3.31	喜内敏	平成23.4.1～平成28.3.31	村本健一郎
昭和61.4.1～平成2.3.31	枷場重正	平成28.4.1～令和4.3.31	須田義昭
平成2.4.1～平成10.3.31	横山恭男	令和4.4.1～	嶋倉剛

名譽教授

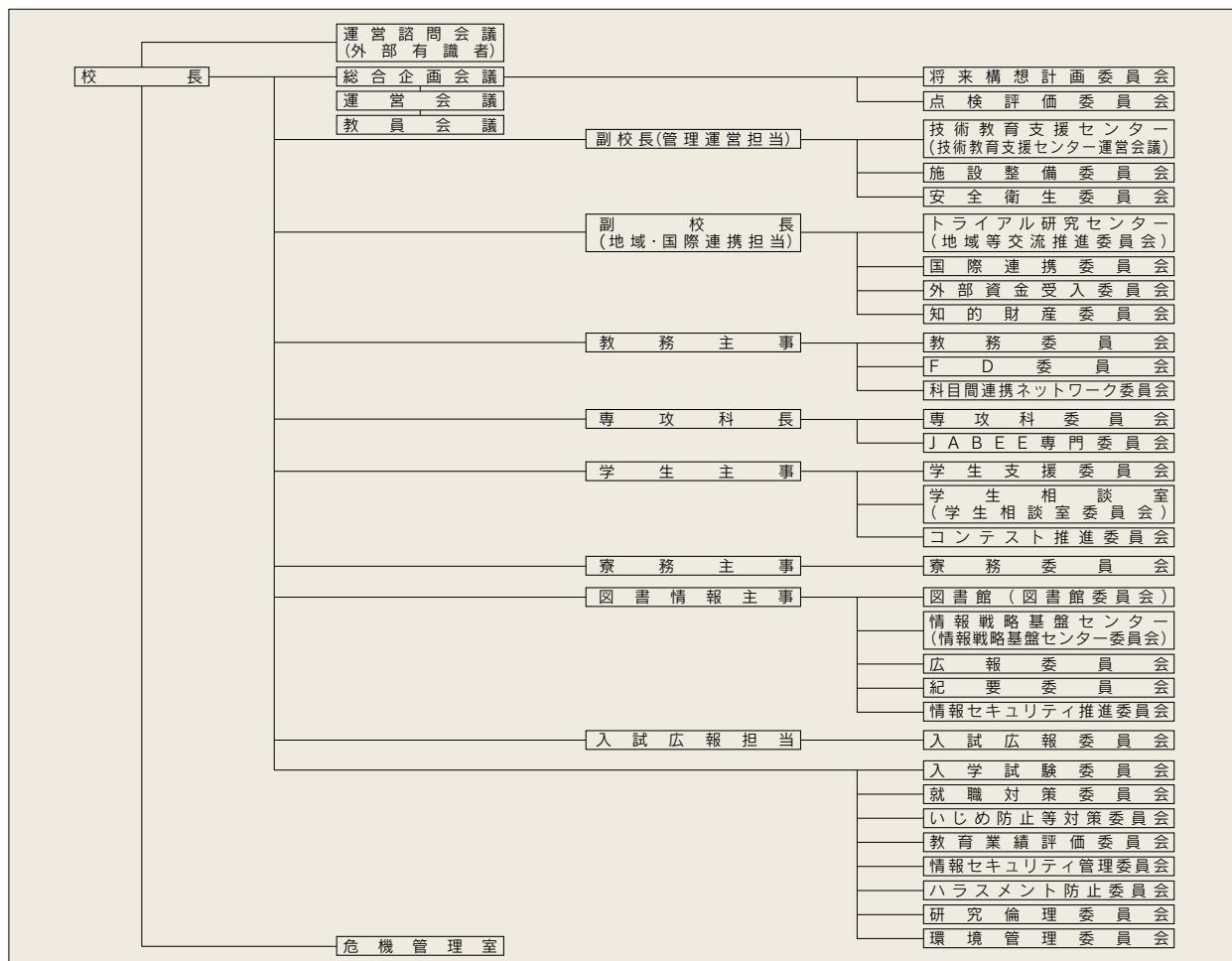
Professors Emeritus

称号授与年月日	氏 名	称号授与年月日	氏 名
昭和63. 4. 1	深川 保則	平成25. 4. 1	松田 理
平成10. 4. 1	中林 敏之	〃 25. 4. 1	岡野 修一
〃 10. 4. 1	山本 一雄	〃 25. 4. 1	小泉 徹
〃 12. 4. 1	鹿渡 強	〃 25. 4. 1	金木 健
〃 13. 4. 1	細川 一夫	〃 26. 4. 1	松崎 良男
〃 13. 4. 1	西村 外志雄	〃 26. 4. 1	堀田 素志
〃 16. 4. 1	松村 文夫	〃 26. 4. 1	岸山 英樹
〃 16. 4. 1	吉元 武	〃 27. 4. 1	竹本 邦夫
〃 16. 4. 1	徳山 栄一	〃 27. 4. 1	北田 幸彦
〃 17. 4. 1	金谷 利勝	〃 27. 4. 1	石渡 博
〃 17. 4. 1	坂東 務務	〃 27. 4. 1	阿蘇 和寿
〃 17. 4. 1	布本 博	〃 27. 4. 1	太田 伸子
〃 18. 4. 1	田保 昭典	〃 28. 4. 1	本村 健一郎
〃 18. 4. 1	米澤 邦男	〃 28. 4. 1	高島 要
〃 19. 4. 1	鶴崎 明	〃 30. 4. 1	竹下 哲義
〃 19. 4. 1	前田 勉	〃 31. 4. 1	鈴木 康文
〃 20. 4. 1	白山 政敏	〃 31. 4. 1	森田 義則
〃 21. 4. 1	出村 禧典	〃 31. 4. 1	深見 哲男
〃 22. 4. 1	畠 時男	令和 2. 4. 1	西澤 辰男
〃 23. 4. 1	金岡 千嘉男	〃 2. 4. 1	奥田 浩司
〃 23. 4. 1	櫻野 仁志	〃 4. 4. 1	須田 義昭
〃 23. 4. 1	割澤 泰泰	〃 4. 4. 1	原川 繁樹
〃 23. 4. 1	中村 繁	〃 4. 4. 1	瀬戸 悟

運営組織

Organization Chart

R5.4.1 現在



学科紹介

Departments

一般教育科

Department of General Education



化学実験風景

豊かな教養から創造的技術へ

一般教育科は、心身ともに豊かな技術者を養成するため、また、あらゆる専門分野に共通の基礎をなすものとして、各学科共通的一般科目（人文・社会系、自然科学系、外国語、保健・体育、芸術）の授業を担当し、さらに成人教育等の特別教育活動においても、重要な役割を担っています。

人文・社会系科目では視聴覚教材の活用、自然科学系科目では実験を重視し、語学では内容言語統合型学習を行うなど、高等教育に適合した内容となっています。

The Department of General Education plays an important role in training physically and mentally well-rounded engineers, in teaching general subjects common to all departments (humanities and social sciences, natural sciences, foreign languages, health and physical education, and the arts) as a common foundation for all specialized fields, and in special education activities such as adult education.

The content of these courses is adapted to higher education using audiovisual materials in humanities and social science courses, focusing on experimentation in natural science courses, and CLIL(Content and Language Integrated Learning) in language courses.



英語授業風景



体育授業風景

● 専任教員 Teaching Staff ●

担当科目 Subject	職名 Title	氏名 Name	学位 Degree	専門分野 Major Field
国語 Japanese Language	教授 Professor	團野 光晴 DANNO Mitsuharu	修士(文学) M.A.	現代日本文学 Modern Japanese Literature
	准教授 Associate Professor	吉本 弥生 YOSHIMOTO Yayoi	博士(文学) Ph.D.	日本近現代文芸／日本近代思想 Modern Japanese Literature / Modern Japanese Philosophy
	准教授 Associate Professor	山崎 梢 YAMAZAKI Azusa	修士(文学) M.A.	日本近世文学 Japanese Early Modern Literature
歴史 History	准教授 Associate Professor	永井 隆之 NAGAI Ryuji	博士(文学) Ph.D.	日本史／日本大衆文化研究 Japanese History / Japanese Pop Culture Studies
哲学・倫理 Philosophy & Ethics	教授 Professor	佐々木香織 SASAKI Kaori	修士(地域研究) M.A.S.	芸術哲学 Philosophy of Art
数学 Mathematics	教授 Professor	松島 敏夫 MATUSHIMA Toshio	博士(理学) D.Sci.	複素多変数函数論／複素解析 Several Complex Variables / Complex Analysis
	教授 Professor	河合 秀泰 KAWAI Hideyasu	博士(理学) D.Sci.	可換環論 Commutative Ring Theory
	教授 Professor	富山 正人 TOMIYAMA Masato	博士(数理学) D.Sci.	代数的組合せ論 Algebraic Combinatorics
	教授 Professor	森田 健二 MORITA Kenji	博士(理学) D.Sci.	代数幾何学 Algebraic Geometry
	准教授 Associate Professor	服部 多恵 HATTORI Tae	博士(理学) D.Sci.	微分幾何学 Differential Geometry
	准教授 Associate Professor	小林 竜馬 KOBAYASHI Ryoma	博士(理学) D.Sci.	位相幾何学 Topology
	講師 Associate Professor	村山 太郎 MURAYAMA Taro	博士(理学) D.Sci.	確率論 Probability Theory
	講師 Associate Professor	吉江 佑介 YOSHIE Yusuke	博士(情報科学) Ph.D.	量子ウォーク／代数的グラフ理論 Quantum walk / Algebraic graph theory
物理 Physics	教授 Professor	佐野 陽之 SANO Haruyuki	博士(工学) D.Eng.	表面科学／光物性 Surface Science / Optical Physics
	准教授 Associate Professor	古崎 広志 KOZAKI Hiroshi	博士(理学) D.Sci.	宇宙物理学 Astrophysics
化学 Chemistry	教授 Professor	畔田 博文 KURODA Hirofumi	博士(工学) D.Eng.	有機・高分子合成 Organic and Polymer Synthesis
保健体育 Health & Physical Education	教授 Professor	南 雅樹 MINAMI Masaki	博士(学術) Ph.D.	特定評価／発育発達 Human Performance Measurement / Human growth and Development
	教授 Professor	北田 耕司 KITADA Koji	博士(医学) Ph.D.	運動生理学 Exercise Physiology
	教授 Professor	岩竹 淳 IWATAKE Jun	博士(体育学) Ph.D.	コーチング／トレーニング Coaching / Training
	講師 Associate Professor	和久井健吾 WAKUI Kengo	博士(工学) Ph.D.	スポーツバイオメカニクス Sports Biomechanics
	嘱託教授 Professor	川原 繁樹 KAWAHARA Shigeki	教育学士 B.Edu.	スポーツバイオメカニクス Sports Biomechanics
英語 English	教授 Professor	川畠 嘉美 KAWABATA Yoshimi	修士(文学) M.A.	認知言語学 Cognitive Linguistics
	准教授 Associate Professor	紺谷 雅樹 KONYA Masaki	文学修士 M.A.	イギリスルネッサンス文学 English Renaissance Literature
	准教授 Associate Professor	モアナ・チャールトン・ビル MOANANU Charlton Bill	修士(TESOL) M.A.	英語教授法 Teaching English to Speakers of Other Languages
	准教授 Associate Professor	香本 直子 KOMOTO Naoko	博士(言語学) Ph.D.	形式意味論 Formal Semantics
	准教授 Associate Professor	鬼頭 美帆 KITO Miho	修士(応用言語学) M.A.	異文化間コミュニケーション・応用言語学 (バイリンガル研究) Cross Cultural Communication & Applied Linguistics (Bilingualism)
	准教授 Associate Professor	西村 知修 NISHIMURA Tomomichi	博士(文学) Ph.D.	生成文法 Generative Grammar

機械工学科

Department of Mechanical Engineering



CAD 演習

未来をひらく機械工学

機械工学は、あらゆる工業技術の基幹であり、また、未来をひらく先端技術でもあります。近年ますます進む機械化、自動化、高度化などの社会の要請に対応すべく、本学科では今日の材料やエネルギー利用に関する理論と実際、高度化の進む情報処理技術などについて、講義や実験などを通して体得できるよう万全の指導体制を整えています。さらに将来いかなる分野にも適応できる基礎学力と柔軟な応用力をもった機械技術者の育成に努めています。

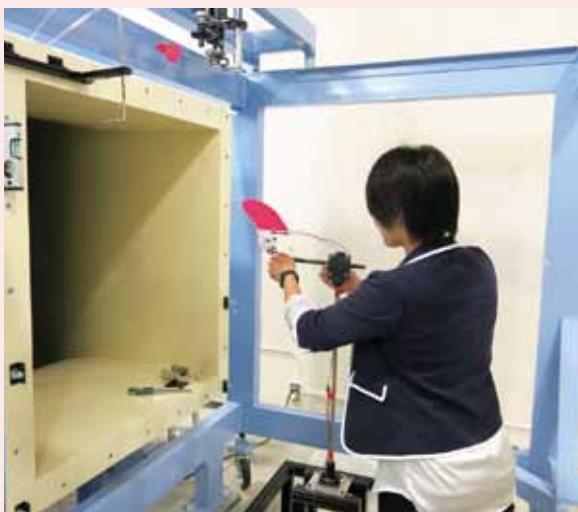
Mechanical engineering is the means which provide us with the basic technology for all fields of modern industry, and which will lead us into the future. To cope with the increasing social demand in recent years of mechanization, automation of production and rapid development of technology, our students study the latest technologies dealing with, for example, new materials, energy, and advanced information processing. In order to become excellent mechanical engineers, students learn, through lectures and experiments, not only the basic principles of mechanical engineering, but also their practical applications to various engineering fields.



自動搬送機構



非接触三次元デジタイザ



風洞実験装置



3次元測定機

● 専任教員 Teaching Staff

職名 Title	氏名 Name	学位 Degree	研究テーマ Themes of Research
教授 Professor	義岡 秀晃 YOSHIOKA Hideaki	博士(工学) D.Eng.	複雑系のミクロ凝固に関する研究 Study on Microsolidification in Complex Systems
教授 Professor	石田 博明 ISHIDA Hiroaki	博士(理学) D.Sci.	計算物理学による物性解析 Material Analysis by Computer Simulation Physics
教授 Professor	堀 純也 HORI Junya	博士(工学) D.Eng.	自動化機器およびメカニズムの設計 Design of Automation and Mechanism
教授 Professor	藤岡 潤 FUJIOKA Jun	博士(工学) D.Eng.	ロボットの精度向上に関する研究 Study on Improvement of Robot Accuracy
准教授 Associate Professor	長谷川雅人 HASEGAWA Masato	博士(工学) D.Eng.	感温性粒子を含む熱流体に関する研究 Study on thermo-fluids with thermo-sensitive particles
准教授 Associate Professor	山下 順広 YAMASHITA Yorihiro	博士(工学) D.Eng.	レーザ粉体肉盛による総形成技術 Layer Formation Technology by Laser Metal Deposition
准教授 Associate Professor	池田 生馬 IKEDA Ikuma	博士(工学) D.Eng.	能動的音響制御による騒音低減および人の震えの低減手法開発 Noise Reduction by Active Noise Control and Reduction of tremor of human
准教授 Associate Professor	穴田 賢二 ANATA Kenji	博士(工学) D.Eng.	外傷発生メカニズムに基づいた防護用品の開発 Development of protective equipment based on injury mechanism
講師 Associate Professor	倉部 洋平 KURABE Yohei	博士(工学) D.Eng.	繊維強化熱可塑性樹脂の摩擦攪拌接合法の開発 Development of Friction Stir Welding Process for fiber Reinforced Thermoplastics
助教 Assistant Professor	寺本 裕志 TERAMOTO Hiroshi	博士(工学) D.Eng.	複数円形及び非円形噴流の流れ構造に関する研究 Study on flow structure of multiple circular and non-circular jets

電気工学科

Department of Electrical Engineering



電気自動車

電力から電子技術まで個性に合わせて

近代社会の実現に大きく貢献したエネルギー、エレクトロニクス、制御、通信、そしてコンピュータなどは、いずれも電気工学が深く関わりを持ってきた分野で、本学科はこれらの領域で活躍できる技術者の育成を目指しています。

実験実習に多くの時間を充てることにより、基礎的な技術、知識を効率よく体得させ、また、応用への展開も容易となるようカリキュラムを構成し、近年の目覚ましい情報、通信技術の進展にも、科目および内容の両面から対応を図っています。

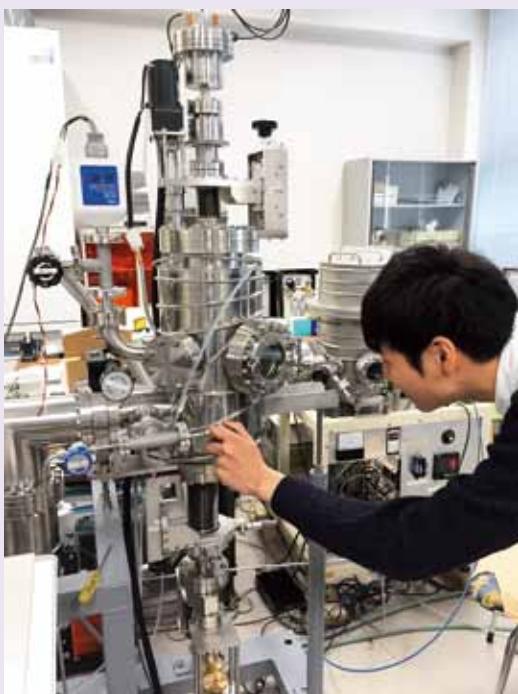
Electrical engineering are playing an increasingly vital role in every field of industry in the contemporary world. The curriculum covers, a wide range of specialized fields, such as energy, electrical machinery, electronics, communication, computers, and control theory. Our aim is to provide students with comprehensive knowledge in electrical engineering. Through conducting a wide range of experiments, they can obtain fundamental knowledge of theory and technical skills.



デジタル回路実験



高電圧工学実験



新素材デバイス作製装置



ACサーボモータの制御実験

● 専任教員 Teaching Staff

職名 Title	氏名 Name	学位 Degree	研究テーマ Themes of Research
教 授 Professor	山田 悟 YAMADA Satoru	博士(工学) D.Eng.	機能性酸化物薄膜の作製と評価 Preparation and Characterization of Functional Oxide Thin Films
教 授 Professor	徳井 直樹 TOKUI Naoki	博士(工学) D.Eng.	ディジタル信号処理と応用 Digital Signal Processing and Application
教 授 Professor	上町 俊幸 KANMACHI Toshiyuki	博士(工学) D.Eng.	ACサーボモータの制御と応用 Control of AC Servo Motor
教 授 Professor	河合 康典 KAWAI Yasunori	博士(工学) D.Eng.	電気刺激を用いた遠隔リハビリテーションの制御 Control of Tele-Rehabilitation by using Electrical Stimulation
教 授 Professor	東 亮一 HIGASHI Ryoichi	博士(工学) D.Eng.	UHF放送波の異常伝搬に関する研究 Study on Anomalous Propagation of UHF Radio Waves
准 教 授 Associate Professor	岡本 征晃 OKAMOTO Masaaki	博士(工学) D.Eng.	磁場閉じ込め装置におけるプラズマ消滅過程に関する研究 Study of Disruption in Magnetic Confinement Device
講 師 Associate Professor	田中 文章 TANAKA Fumiaki	博士(工学) D.Eng.	高電圧・パルスパワー技術を用いた放電・プラズマ応用に関する研究 Study of Discharge and Plasma Application Using High Voltage and Pulsed Power Technology
講 師 Associate Professor	矢吹 明紀 YABUKI Akinori	博士(工学) D.Eng.	ロボットマニピュレータの高速・高精度なモーションコントロール High Performance Motion Control of Robot Manipulator
嘱託教授 Professor	瀬戸 悟 SETO Satoru	博士(工学) D.Eng.	有機・無機半導体薄膜の成長と太陽電池への応用 Growth of Organic and Inorganic Semicondution Films

電子情報工学科

Department of Electronics and Information Engineering



情報セキュリティ特別授業

システム思考のできる人材育成

スマートフォン、インターネット、SNS 等これら情報通信ツールは今や爆発的普及を見せて います。その背景には、電子・情報・通信分野の高度技術が隠されており、今も絶え間なく進歩しています。技術の進歩に伴って、地球規模で様々な問題が起こっていることも事実ですが、技術の進歩を止めるわけにはいきません。人類には人間と地球の両方に利益をもたらす高度技術の開発が求められており、電子情報工学はその重要な鍵を握っています。

本学科では、このような社会状況をふまえ、電子工学、情報工学、通信工学の豊富な知識を持ちながら、21世紀の高度技術社会にふさわしいセンスを身につけた電子情報工学技術者の育成を目指しています。

Owing to the rapid development of advanced technology in the fields of electronics, information, and communication, people are capable of communicating using smartphones, SNS and the internet. Electronics and information engineering develops technologies which contribute to both the improvement of the global environment and technological development. Such advances will benefit both human beings and the earth.

The department aims at training the students to be skilled engineers combining the knowledge of electronics, information, and communication engineering in the highly developed technological society of the 21st century.



3Dプリンタ



システム設計演習



● 専任教員 Teaching Staff			
職名 Title	氏名 Name	学位 Degree	研究テーマ Themes of Research
教 授 Professor	山田 洋士 YAMADA Yoji	博士(工学) D.Eng.	デジタル信号処理アルゴリズムとその実現 Theory and Application of Digital Signal Processing
教 授 Professor	山田 健二 YAMADA Kenji	博士(工学) D.Eng.	電子材料表面の分析 Analysis of Electronic Material Surface
教 授 Professor	長岡 健一 NAGAOKA Kenichi	博士(情報工学) Ph.D.	情報通信ネットワークシステムの性能評価 Performance Evaluation of Network Systems
教 授 Professor	小村良太郎 KOMURA Ryotaro	博士(工学) D.Eng.	リモートセンシング, GIS による森林衰退の解析 Analysis of Forest Decline Using Remote Sensing and GIS
教 授 Professor	越野 亮 KOSHINO Makoto	博士(工学) D.Eng.	人工知能, IoT, VR Artificial Intelligence, Internet of Things, Virtual Reality
准 教 授 Associate Professor	松本 剛史 MATSUMOTO Takeshi	博士(工学) D.Eng.	VLSI設計の形式的検証とデバッギング支援 Formal Verification and Debugging Support of VLSI Design
准 教 授 Associate Professor	川除 佳和 KAWAYOKE Yoshikazu	博士(工学) D.Eng.	イメージメディアの品質評価 Assessment of Image Media Quality
准 教 授 Associate Professor	嶋田 直樹 SHIMADA Naoki	博士(工学) D.Eng.	人間支援を目的としたロボットの高性能モーションコントロール Fine Motion Control of Robots for Human Support
講 師 Associate Professor	任田 崇吾 TODA Sogo	博士(工学) D.Eng.	光を用いた生体計測と解析 Biomedical Measurement and Analysis Using Light
助 教 Assistant Professor	三吉 建尊 MIYOSHI Takeru	修士(工学) M.Eng.	コンピュータビジョン, 機械学習 Computer Vision, Machine Learning

環境都市工学科

Department of Civil Engineering



ドローン実習

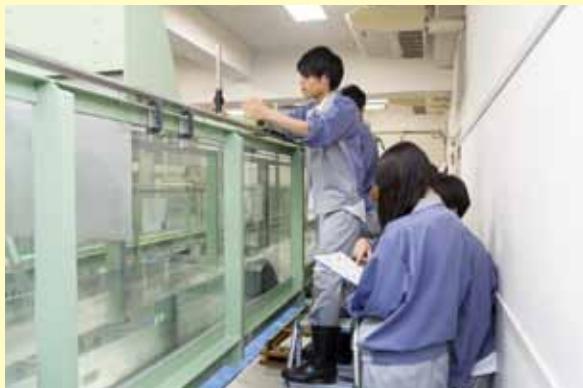
くらしと自然を守る建設技術

環境都市工学は、自然環境との調和を図りながら、快適な市民生活に必要な社会基盤を整備するためになくてはならない総合技術です。ここには、都市計画の策定、それに基づいた道路、鉄道、発電所、上下水道、公園、ダム、橋梁などの都市施設の建設・運用を、貴重な自然環境を保全しつつ行う技術が含まれています。

本学科は、このような技術を習得し、かつ人間的でリーダーシップを持った実践的な技術者を育てることを目的としています。この目的を実現するために、本学科のカリキュラムは実践的な実習、演習を中心にして、基本的な工学理論及びコンピュータ科学などの先端的な技術の習得が可能なように構成されています。

Civil engineering is a basic technology essential for creating comfortable and safe human life by creating the infrastructures of human civilization while preserving the natural environment. Civil engineering technologies are used to map out the lines of land and city development and, accordingly, to design, construct and operate such facilities as roads, railroads, power plants, water supplies, parks, tunnels, bridges and dams without destroying the valuable natural environment.

The department aims to educate civil engineers to become competent in planning, designing, and executing projects with a spirit of harmony and leadership. For this purpose, our department's curriculum attaches great importance to experiments and practices in designing and drawing, as well as basic knowledge of civil engineering and computer science.



水理実験



環境実験



土質実験



測量実習

● 専任教員 Teaching Staff ●

職名 Title	氏名 Name	学位 Degree	研究テーマ Themes of Research
教授 Professor	富田 充宏 TOMIDA Michihiro	博士(工学) D.Eng.	RC 及び PC 部材の非線形解析 Nonlinear Analysis of RC and PC Structures
教授 Professor	重松 宏明 SHIGEMATSU Hiroaki	博士(工学) D.Eng.	各種地盤材料の特性解明とその改良 Characterization of Various Geomaterials and its Improvement
教授 Professor	津田 誠 TSUDA Makoto	博士(工学) D.Eng.	橋梁の長寿命化に関する研究 Study on Long Life Extension of Concrete
准教授 Associate Professor	大橋 慶介 OHASHI Keisuke	博士(工学) D.Eng.	河川表流水と地下水および土砂輸送の相互作用に関する研究 Interaction between river surface water, groundwater, and sediment transportation
准教授 Associate Professor	高野 典礼 TAKANO Morihiro	博士(工学) D.Eng.	農耕土壤からの硝酸流出抑制に関する研究 Study on Control of Nitrogen Leaching from Agricultural Soil
准教授 Associate Professor	新保 泰輝 SHIMBO Taiki	博士(工学) D.Eng.	地震時の土構造物の破壊に関する研究 Study on Earthquake-Induced Failure of Soil-Structure
准教授 Associate Professor	寺山 一輝 TERAYAMA Kazuki	博士(工学) D.Eng.	持続可能な地域をつくるための交通行動分析・評価手法の開発 Development of Travel Behavior Analysis and Evaluation Technique for Sustainable Regions
講師 Associate Professor	前田 健児 MAEDA Kenji	博士(工学) D.Eng.	鋼構造物の維持管理に関する研究 Study on Maintenance of Steel Structures
講師 Associate Professor	小杉 優佳 KOSUGI Yuka	博士(工学) D.Eng.	硫黄サイクルとANAMMOXを活用した畜産関連排水処理の開発 Development of Livestock Wastewater Treatment Utilizing Sulfur Cycle and ANAMMOX Reaction

建築学科

Department of Architecture



建築設計デザインワーク

未来を創造する建築学科

建築学は、人間生活の「器」ともいえる建築を創造するために、人間の歴史・文化・経済・心理などにわたる幅広い教養ならびに芸術的感性と工学が総合化されるユニークな技術体系です。

建築学科では、一般科目で基礎的な教養を養う一方、専門科目では建築計画を主体として環境・構造・設備の総合である建築設計において実践的な実習を行っています。また、より快適で安全な建築に必要な構造安全性と建築材料・生産技術および建築環境・設備工学等における高度の専門知識を教授することにより、建築における多様な分野の人材を育成しています。

In order to produce architecture space that can be thought of as ‘Chora’ for human life society, we must combine a broad range of knowledge of subjects such as history, culture, economics, and psychology with our artistic sensibility and engineering education into a unique organization.

While students gain fundamental knowledge in the general course, they study architecture as comprehensive design. In the department’s specialized course, they have practical training in architecture planning as a main subject considered structure, environment and equipment. In order to become specialists in various fields of architecture, aiming to create safer and more comfortable buildings, they also learn the latest knowledge of architectural engineering such as structural safety, building material, construction technology and environmental engineering of architecture.



模型による構造実験



環境調整実験設備での実験



設計製図



ワークショップ（間伐材家具の制作）

● 専任教員 Teaching Staff ●

職名 Title	氏名 Name	学位 Degree	研究テーマ Themes of Research
教 授 Professor	道地 慶子 DOCHI Keiko	修士(芸術学) M.Arts.	アーバンファブリックスから見た「住み続けられるマチ」を実現する高密度都市の研究 <i>Study on the Experience of Urban Density Through Forcusing on Urban Fabrics</i>
教 授 Professor	熊澤 栄二 KUMAZAWA Eiji	博士(工学) D.Eng.	景観構造の研究 <i>Study on Relation Between Meaning Structure of Places and Scenery</i>
教 授 Professor	恩村 定幸 ONMURA Sadayuki	博士(工学) D.Eng.	建築空間および周辺環境における環境制御に関する研究 <i>Study on Environmental Control of Indoor and Outdoor Space</i>
教 授 Professor	船戸 慶輔 FUNATO Keisuke	博士(工学) D.Eng.	構造システムの数値解析手法に関する研究 <i>Study on Numerical Analysis Method of Structure System</i>
教 授 Professor	村田 一也 MURATA Kazuya	博士(工学) D.Eng.	建築都市理論と社会的状況の関連について <i>Study on the Relations Between Architectural / Urban Theories and Social Circumstances</i>
准 教 授 Associate Professor	内田 伸 UCHIDA Shin	修士(工学) M.Eng.	デザイン理論と建築設計手法について、建築アーカイブス <i>Design Theory and Architectural Design Method, Architectural Archives</i>
准 教 授 Associate Professor	森原 崇 MORIHARA Takashi	博士(学術) Ph.D.	交通機関騒音に対する社会反応に関する研究 <i>Study on Community Responses to Transportation Noise</i>
准 教 授 Associate Professor	豊島 祐樹 TOYOSHIMA Yuki	博士(工学) D.Eng.	歴史的な建築・市街地の再生整備に関する研究 <i>Study on the Revitalization of Historic Buildings and Landscapes</i>
講 師 Associate Professor	小川 福嗣 OGAWA Fukutsugu	博士(工学) D.Eng.	情報技術の活用した防災の高度化に関する研究 <i>Study on improvement of disaster prevention using information technology</i>
講 師 Associate Professor	秦 明日香 HATA Asuka	博士(工学) D.Eng.	近現代建築家の制作思想についての研究 <i>Study on Design Theory of Modern Architects</i>

専攻科

Advanced Engineering Courses

近年の科学技術の高度化、情報化、国際化に伴い、地域における産業界もこれらを避けて発展することは不可能になっています。この流れに対応するため、本校では、それまでの実践的中堅技術者の育成に留まることなく、より高度な専門的知識と技術を身につけた研究開発型技術者の育成を目指して教育研究を施す専攻科を設けています。

The sustainability of growth of local industries now depends upon the successful utilization of rapidly advancing information-oriented, and internationalized technology. Bearing this in mind, the College of Technology aims to produce not only graduates well-verses in traditional engineering skills, but also those with a more finely-honed set of research and development skills and technical knowledge. In order to accomplish this, an Advanced Engineering Course has been established which will offer high-level classes in areas such as research and education.

(1) 教育制度

高専における専攻科は、高専5年間に加え、さらに2年間の高度な教育研究を行う課程です。所定の単位を修得して一定の条件を満たすことにより、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から修了と同時に「学士(工学)」の学位を授与されます。なお、「協同教育」の一環として、1年次に2ヶ月の長期インターンシップを実施しています。

(1) Educational System

The Advanced Engineering Course is a two-year course that begins after graduating from the five-year regular course. Students are provided with advanced education and upon graduation receive a baccalaureate in engineering by the approval of NIAD-QE, National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education. Furthermore, as part of “a cooperative education” curriculum, a two month internship program for first-year-students has been implemented.

(2) 専攻と定員

(a) 電子機械工学専攻…12名

本専攻は、製造技術やシステム構築技術に関連する基幹学科を基盤としており、メカトロニクス技術、計測制御技術、情報通信、ネットワーク技術、新素材開発、さらにその周辺技術を広く教授します。また、特別研究、創造工学演習等の工学教育により、技術と人間環境との調和を図りながら、電子機械工学分野の研究開発に創造的・実践的に関わる総合技術者を育成します。

(b) 環境建設工学専攻…8名

本専攻は、都市や住環境など生活空間を創造・提供する基幹学科を基盤としており、力学を基礎とした構造設計、環境と機能を基礎としたシステム的都市計画、居住計画、さらに快適な生活空間設計のためのコンピュータ利用技術等を広く教授します。その上で、特別研究、創造工学演習等の工学教育により、技術と自然環境との調和を図りながら、環境建設工学部門の研究開発に創造的・実践的に関わる総合技術者を育成します。

(2) Courses and Class Sizes

(a) Electronic and Mechanical Engineering Course…12 students

This course is based on mechanical engineering, electrical and electronic and information engineering. We teach mechatronics, control system design, communication engineering, new material development, and related areas. Moreover, in graduate research and creative engineering projects, we educate engineering students to harmonize technology with the environment and produce engineers who can play a creative and practical part in research and development in the field of electronics and mechanical engineering.

(b) Architecture and Civil Engineering Course…8 students

This course is based on architecture and civil engineering. We aim to create more comfortable living and working environments. We teach structural planning, regional planning based on environmentalism and functionality, housing planning, and computer assisted techniques. In graduate research and creative engineering projects, we educate engineering students to harmonize technology with the natural environment, and moreover produce engineers who can play a creative and practical part in research and development in the field of architecture and civil engineering.

(3) 進路

就職：企業の採用試験においては大学卒と同等に扱われます。就職先は、県内外の機械、電気、電子、情報、通信関係の製造業やサービス業、土木、建築、環境関係の建設業およびこれらの分野に関する民間企業、国や地方自治体、公社公団等となっています。

進学：大学院(金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学、福井大学、早稲田大学と推薦入学協定を締結しています)

(3) After upon Graduation

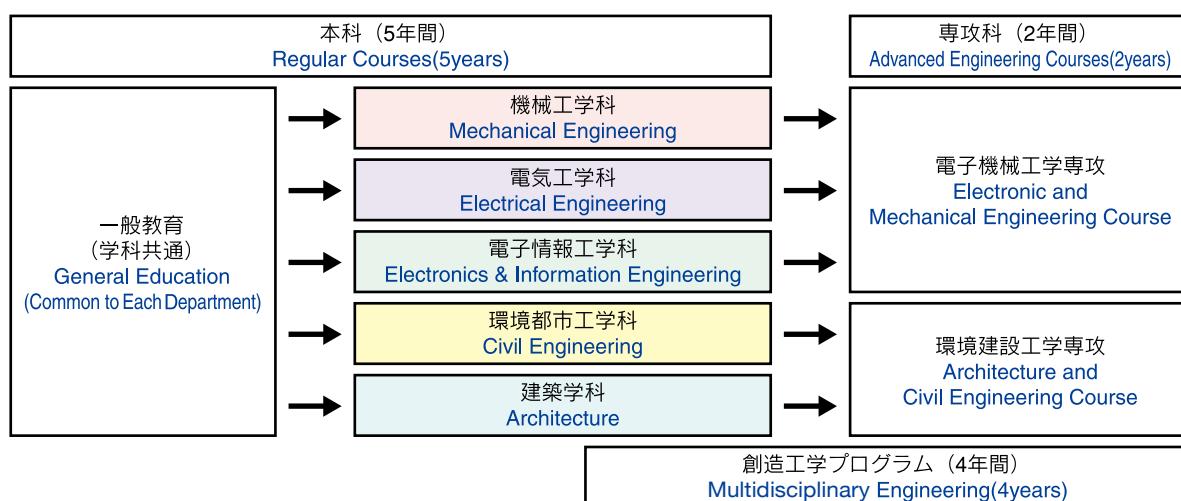
Employment : Companies evaluate the academic achievement of graduates as having obtained a Bachelor's Degree.

Employment is in the manufacturing, service and construction industries, national or local governments, and public corporations.

Education : Further education at the graduate level. (Established agreements with Kanazawa University, Japan Advanced Institute of Science and Technology, Fukui University and Waseda University allowing students to transfer by letter of recommendation.)

創造工学プログラム

Multidisciplinary Engineering



本科 5 年間および専攻科 2 年間の教育プログラムに加え、本科 4 年から専攻科 2 年までの 4 年間を対象とした教育プログラムが設定されています。このプログラムは国際的に通用する技術者の育成を目指すもので、その学習・教育目標は下記 A～E のとおりです。

A) 科学技術や情報をを利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力する技術者を育成する。

B) 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる技術者を育成する。

C) 國際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる技術者を育成する。

D) 実践的な体験を通して、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる技術者を育成する。

E) チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる技術者を育成する。

さらに、本プログラムは専攻科入学時において、複数の工学の知識を修得し幅広い考察ができる技術者を育成するための複合工学修得コース (JABEE (日本技術者教育認定機構) 認定) と、専門工学を探究し深い考察ができる技術者を育成するための専門工学探究コースに分けられます。いずれのコースも人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者の育成を目指しています。

The core subjects assigned to the 4th and 5th years of our regular courses, and the corresponding educational program of our advanced course, are designed as an integrated 4-year educational program. This program is designed to create engineers that meet global standards, and its goals are as follows :

A) To have students realize the value of utilizing technology to foster new products, and to educate them to understand the importance of strenuous effort.

B) To educate students to be able to identify problems and propose rational solutions, employing theoretical analysis and acquired skills and knowledge.

C) To help students develop their linguistic skills and have better understanding of the global community, and to educate future engineers who can take society and the natural environment into consideration.

D) To educate future engineers who use practical experience to deal with real problems of society.

E) To provide students with the necessary planning ability to execute a team project and give a logical presentation.

This program consists of two courses ; 1) The JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education) accredited General Engineering to educate engineers who are equipped with knowledge of diverse fields of engineering and explore it widely, 2) Specialized Engineering to educate engineers who work in a specialized field of engineering and explore it thoroughly.

教育課程

Curriculums

平成30年度入学者から本課程を適用しています。

This curriculum is applied to the first-year students in the year 2018, and those who will be admitted hereafter.

一般科目 General Subjects

各学科共通
Common to Each Course

必修科目 Required Subjects		授業科目 Subjects	単位数 Number of Credits	学年別配当 Distribution by Years				
				1 1st	2 2nd	3 3rd	4 4th	5 5th
国語 Japanese	国語 I	Japanese I	4	4				
	国語 II	Japanese II	2		2			
	国語 III	Japanese III	2			2		
	日本文学	Japanese Literature	1				1	
	歴史 I	History I	2	2				
	歴史 II	History II	1		1			
	倫理	Ethics	2		2			
	地理	Geography	1			1		
	政治・経済	Politics & Economy	1			1		
	哲学	Phylosophy	1				1	
社会 Humanities & Social Science	法学	Law	1				1	
	基礎数学 A	Basic Mathematics A	4	4				
	基礎数学 B	Basic Mathematics B	3	3				
	解析学 I	Differential & Integral Calculus I	4		4			
	解析学 II	Differential & Integral Calculus II	4			4		
	代数・幾何 I	Algebra & Geometry I	2		2			
	代数・幾何 II	Algebra & Geometry II	1			1		
	総合数学	Mathematics Exercise	1			1		
	物理学 I	Physics I	2	2				
	物理学 II A	Physics II A	2		2			
数学 Mathematics	物理学 II B	Physics II B	1		1			
	総合物理	General Physics	1			1		
	化学 I	Chemistry I	2	2				
	化学 II	Chemistry II	3		3			
	保健体育 I	Health & Physical Education I	2	2				
	保健体育 II	Health & Physical Education II	2		2			
理科 Science	保健体育 III	Health & Physical Education III	2			2		
	保健体育 IV	Health & Physical Education IV	2				2	
	保健体育 V	Health & Physical Education V	1					1
	芸術 Art	Fine Arts	1	1				
	基礎オーラルコミュニケーション	Basic Oral Communication	2	2				
外国語 Foreign Language	基礎英語 I	Basic English I	2	2				
	基礎英語 II	Basic English II	2		2			
	英語表現 I	English Expression I	2	2				
	英語表現 II	English Expression II	4		4			
	英語表現 III	English Expression III	1			1		
	総合英語	Comprehensive English	1			1		
	英語講読 I	English Reading I	2			2		
	英語講読 II	English Reading II	2				2	
	英語講読 III	English Reading III	1					1
	一般必修科目開講単位合計	Total of Offered Credits of General Subjects	77	26	25	17	7	2

令和5年度入学者から本課程を適用しています。

This curriculum is applied to the first-year students in the year 2023, and those who will be admitted hereafter.

専攻科一般科目 General Subjects

各専攻共通
Common to Each Course

授業科目 Subjects	単位数 Number of Credits	学年別配当 Distribution by Years		備考 remark
		1st	2nd	
日本語表現 Japanese Expression	2	2		必修 Required
英語コミュニケーションⅠ English Communication I	2	2		必修 Required
英語コミュニケーションⅡ English Communication II	2		2	必修 Required
日本文化論 Japanese Culture	2		2	必修 Required
健康科学 Health Science	2		2	必修 Required
一般科目開設単位数合計 Total of Offered Credits of General Subjects			10	
一般科目修得単位数合計 Total of Required Credits of General Subjects			10	

専攻科専門科目 Specialized Subjects

電子機械工学専攻
Electronic and Mechanical Engineering Course

専門共通科目 Specialized Common Subjects	授業科目 Subjects	単位数 Number of Credits	学年別配当 Distribution by Years		備考 remark
			1st	2nd	
インターンシップ Internship	7	7			必修 Required
環境技術 Introduction to Environmental Technology	2		2		必修 Required
技術者倫理 Ethics for Engineers	2	2			必修 Required
線形代数 Linear Algebra	2	2			必修 Required
数理・データサイエンス・AI Mathematics-Data Science-AI	2	2			必修 Required
サステナビリティ・サイエンス Sustainability Science	2	2			選択 Elective
離散数学 Discrete Mathematics	2		2		選択 Elective
量子力学 Quantum Mechanics	2		2		選択 Elective
専門共通科目開設単位数合計 Total of Offered Credits of Specialized Common Subjects				21	
専門共通科目修得単位数合計 Total of Required Credits of Specialized Common Subjects			17単位以上(必修科目15単位を含む)	17 or more	
専門展開科目 Specialized Advanced Subjects	特別研究Ⅰ Graduation Research I	6	6		必修 Required
	特別研究Ⅱ Graduation Research II	8		8	必修 Required
	創造工学演習Ⅰ Creative Engineering Project I	3	3		必修 Required
	創造工学演習Ⅱ Creative Engineering Project II	4		4	必修 Required
	電子機械概論 Introduction to Electronics and Mechanical Engineering	2	2		必修 Required
	センサ工学 Sensing Technology	2	2		必修 Required
	IoTシステム概論 Introduction to IoT Systems	2	2		必修 Required
	計測制御工学 Control System Design	2	2		必修 Required
	エネルギー管理工学 Energy Management	2	2		必修 Required
	エネルギー機械工学 Mechanical Engineering for Energy	2		2	選択 Elective
	機械設計工学 Mechanical Design Engineering	2		2	選択 Elective
	機能素子工学 Electronic Functional Device Engineering	2		2	選択 Elective
	電磁応用工学 Applied Electromagnetic Engineering	2		2	選択 Elective
	生体情報工学 Biological Information Engineering	2		2	選択 Elective
	メディア工学 Media Engineering	2		2	選択 Elective
専門展開科目開設単位数合計 Total of Offered Credits of Specialized Advanced Subjects				43	
専門展開科目修得単位数合計 Total of Required Credits of Specialized Advanced Subjects			35単位以上(必修科目31単位を含む)	35 or more	

一般科目を含む開設単位合計 Total of Offered Credits of General Subjects and Specialized Subjects	74
一般科目を含む修了に要する修得単位合計 Total of Required Credits of General Subjects and Specialized Subjects	62単位以上 (1年次30単位以上) 62 or more (30 or more in 1st Year)

(備考) 1年次配当の総修得単位数が30単位に満たない者は、2年次配当の創造工学演習Ⅱを履修できない。

(Note) Students must get 30 or more credits in their first year in order to take Creative Engineering Project II in their second year.

すべて学修単位科目

All credits are equivalent to university credits

専攻科専門科目

Specialized Subjects

環境建設工学専攻

Architecture and Civil Engineering Course

	授業科目 Subjects	単位数 Number of Credits	学年別配当 Distribution by Years		備考 remark
			1 1st	2 2nd	
専門共通科目 Specialized Common Subjects	インターンシップ Internship	7	7		必修 Required
	環境技術 Introduction to Environmental Technology	2		2	必修 Required
	技術者倫理 Ethics for Engineers	2	2		必修 Required
	線形代数 Linear Algebra	2	2		必修 Required
	数理・データサイエンス・AI Mathematics-Data Science-AI	2	2		必修 Required
	サステナビリティ・サイエンス Sustainability Science	2	2		選択 Elective
	離散数学 Discrete Mathematics	2		2	選択 Elective
	量子力学 Quantum Mechanics	2		2	選択 Elective
専門共通科目開設単位数合計 Total of Offered Credits of Specialized Common Subjects				21	
専門共通科目修得単位数合計 Total of Required Credits of Specialized Common Subjects			17単位以上(必修科目15単位を含む)	17 or more	
専門展開科目 Specialized Advanced Subjects	特別研究 I Graduation Research I	6	6		必修 Required
	特別研究 II Graduation Research II	8		8	必修 Required
	創造工学演習 I Creative Engineering Project I	3	3		必修 Required
	創造工学演習 II Creative Engineering Project II	4		4	必修 Required
	建設材料学 Construction Materials	2	2		必修 Required
	地盤材料工学 Geomaterial Engineering	2	2		必修 Required
	振動・波動工学 Vibration and Wave Propagation Engineering	2	2		必修 Required
	建築環境調整論 Regulation Theory of Architectural Environment	2	2		必修 Required
	住生活文化論 Advanced Theories of Dwelling	2	2		必修 Required
	交通基盤工学 Engineering of Transportation Infrastructures	2		2	選択 Elective
	水圏環境工学 Hydrosphere Engineering	2		2	選択 Elective
	人間・環境デザイン論 Design Theory of Human Environment	2		2	選択 Elective
専門展開科目開設単位数合計 Total of Offered Credits of Specialized Advanced Subjects				39	
専門展開科目修得単位数合計 Total of Required Credits of Specialized Advanced Subjects			35単位以上(必修科目31単位を含む)	35 or more	

一般科目を含む開設単位合計 Total of Offered Credits of General Subjects and Specialized Subjects	70
一般科目を含む修了に要する修得単位合計 Total of Required Credits of General Subjects and Specialized Subjects	62単位以上 (1年次30単位以上) 62 or more (30 or more in 1st Year)

(備考) 1年次配当の総修得単位数が30単位に満たない者は、2年次配当の創造工学演習IIを履修できない。

(Note) Students must get 30 or more credits in their first year in order to take Creative Engineering Project II in their second year.

すべて学修単位科目

All credits are equivalent to university credits

共同利用施設

Joint-use Facilities

情報戦略基盤センター

Information Strategy and Technology Center

情報戦略基盤センターは、学内共同利用施設として学術研究や講義、実験実習、卒業研究、また公開講座等に、学生・教職員を問わず幅広く利用されています。当センターでは、情報処理演習室、主要ネットワークサーバ、校内ギガビットネットワーク、無線 LAN の維持管理や、情報セキュリティ対策を実施しています。

4つの情報処理演習室と小演習室に計 150 台のデスクトップパソコンを設置しており、プログラミング演習、数値解析およびレポートやプレゼンテーション資料の作成などの様々な教育・研究環境を提供しています。また無線 LAN により校内どこからでもネットワークが利用でき、一般教室でも情報処理演習が可能です。

さらにパソコンやネットワークなどをを利用して教育を行う e-learning 環境も整備されており、学校内だけでなく自宅からも自学自習ができるようになっています。以上のように、当センターは利用者の自主性と創造性を尊重し、充実した教育・研究環境の実現を目指す本校の中核施設として大きな役割を担っています。

The Information Strategy and Technology Center, a facility for common use on the campus, is available for a wide range of activities such as scientific research, lectures, experiments, training, extension courses and graduation research. We manage the information processing rooms, network servers, campus gigabit-ethernet, wireless LAN and supervise information security.

The center's information processing rooms are equipped with 150 computers in total. These rooms provide an educational and research-oriented atmosphere where students can do activities such as writing reports, making presentation materials, studying programming or doing numerical analyses. Thanks to the wireless LAN, the network can be accessed from anywhere on campus, so even in the general classrooms it is possible to access valuable resources.

Furthermore, the e-learning environment is arranged to deliver education by utilising computers and networks to enable self-learning from school or from home. The Information Processing Center plays the important role of being the school's main facility that is in charge of providing a rich education and research environment and is dedicated to fostering the independence and creativity of its users.



情報戦略基盤センター演習室での授業の様子



演習用PCを10台備える小演習室



サーバ室に設置された基幹サーバやネットワーク機器

図書館・視聴覚教室

Library and Audio Visual Classroom

図書館棟は、閲覧室、書庫、マルチメディアルーム、ラーニング・コモンズおよび視聴覚教室等で構成されており、収集している資料は、理工系分野の図書・雑誌はもとより、各分野の専門書や一般教養書、BD(ブルーレイディスク)、DVD、CD等多岐にわたっています。また、電子ジャーナルや文献検索データベースの利用も可能となっています。

ラーニング・コモンズは42席を保有し、1クラスを一堂に収容することができます。可動式の椅子や机、ホワイトボード等が設置され、グループでの学習が可能となっています。

一方、視聴覚教室は231座席を保有し、1学年を一堂に収容できる規模となっています。本教室には、国外からの授業、講演も可能な視聴覚機器や教材を導入しています。

図書館の利用については、本校の学生、教職員のみならず、地域住民に対しても広く開放しています。

The library building is made up of Reading Room, Stack Room, Multi-media Room, Learning Commons, and Audio Visual Classroom. It possesses not only technical books of various fields but books in general, series, and periodicals. There is also a collection of blu-ray discs, DVDs and compact discs. Electronic journals and online database search are also available.

The room called Learning Commons seats 42 people, which almost equals the number of students in one class. Since it is equipped with movable chairs, tables, and whiteboards, they may study in a small group if they want to.

The audiovisual classroom seats 231 people, which is approximately equal to the number of studies in one grade. It is equipped with various mechanical equipment so that we can utilize up-to-date audio-visual materials for teaching.

The library is open to local residents as well as our students and staff members.

開館時間 Library Hours

曜 日	平 常	休 業 時
月～金	8:30～19:00	8:30～17:00

備考：土曜・日曜・祝日・夏季一斉休業・年末年始は休館。
詳細は、図書館Webサイトの開館カレンダーを
参照してください。
臨時休館は、その都度掲示。

蔵書冊数・種類数 Collection of Book

R5.3.31現在

区 分	単 行 書	雑 誌	電子ブック
和 書	85,427冊	1,321種	121点
洋 書	14,838冊	250種	0点
計	100,265冊	1,571種	121点

視聴覚教材 Audio-Visual Aids (Kinds)

R5.3.31現在

BD	LD	DVD	CD	ROM	レコード
220点	773点	1,105点	577点	147点	160点



図書館閲覧室



ラーニング・コモンズ



視聴覚教室



マルチメディアルーム

トライアル研究センター

TRIAL* Research Center

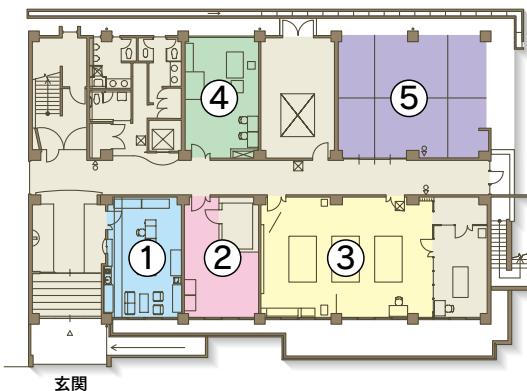
本センターは、それまでの地域共同技術相談室を発展的に解消して、平成12年2月に学内共同教育研究施設として創設されました。総合技術開発能力のある学生の育成および地域産業界等との共同研究・技術交流により、本校における教育研究活動の一層の推進を図ることを目的としています。業務内容はものづくりの基本的過程を機能的に分けた〈情報〉〈計画〉〈試作〉〈試験・評価〉の4部門から構成されています。建物は平成12年度末に完成し、ものづくりの可能性に研究領域の枠を超えてトライ（挑戦）できる場として、また地域産業に密着した技術教育の場として活用されています。さらに、小中高生の体験教育や社会人のリフレッシュ教育を通して地域社会に開かれた施設としても位置づけられています。

The TRIAL* Research Center (Regional Collaboration Center for Technology) was established in February 2000. This center for joint study aims to improve students' ability for technical development, and to promote joint research and technical exchange with the local industry, which can stimulate education and research activities in our college. In accordance with the creative process, what we do in this center is functionally divided into four sections : information, planning, trial manufacturing, and testing and evaluation. The building for this center was completed at the end of the year 2000. The center is expected to be utilized as a place where one can try to create things beyond his or her field of research, and where one can learn technology which is closely connected with the traditional local industry. Moreover, it is open for the regional community, is used for our college tour by students from elementary schools, junior and senior high schools, and is a place for continued education.

TRIAL*:Technology, Research, Integration, Assessment, Liability

トライアル研究センター建物平面図

1階平面図



2階平面図



①地域等交流推進室

②材料分析室

③試作開発室

④X線回折室

⑤ものづくり広場

⑥ゼミ室

⑦基礎情報教育演習室

⑧科学技術相談室

技術教育支援センター

The Technology and Education Support Center

技術教育支援センターは、機械制御班、電気電子情報班、建設環境物質班の3つの班の体制で、副校長（管理運営）の下に組織されています。

技術職員全員が連携して、本校における教育支援・技術支援を行うとともに、出前授業・公開講座などの地域貢献に関する業務や、外部資金の獲得も積極的に行ってています。

技術教育への更なる向上と幅広い支援業務を行うとともに、教室系技術職員の能力および資質の向上を目指しています。

The Technology and Education Support Center is assigned under the school vice president and there are three groups; the Mechanical Control, Electronics and IT, and Architectural/Civil Engineering Materials.

All the center members cooperate in contributing to the region areas through continued education as well as by offering educational support and technical assistance at school. Members have also successfully applied for scientific research projects.

With the goal of improving engineering education and support services, the center aims to enhance efficiency of a wider range of service operations and the aptitude of "classrooms' technology instructors".



技術教育支援センター入口



出前授業の様子

機械実習工場

Machine Shop

機械実習工場は、実践的な技術者教育を目指す高専には必要不可欠な施設であり、設備の充実に特に力を注いでいます。安全教育を含めた機械実習は、機械工学科1~3年次において旋盤、特殊機械、鋳造、鍛造、溶接、手仕上げの6項目を中心に実施されています。さらに学生は、卒業研究における試験片や試験装置の製作、ロボコン等を目的としたメカトロニクス分野でのロボット製作に広く実習工場を利用しています。実習工場は学生の技術の向上、応用力の養成に大きな役割を果たしています。

This shop is essential for the College of Technology to encourage their students to be practical and creative engineers. Our equipment in the shop is the state of the arts. Here the 1st, 2nd, and 3rd year students of the Mechanical Engineering Course learn how to operate and practice lathing, miscellaneous machining, casting, forging, welding, and hand finishing. The students use the shop to make test-pieces or test-devices for their theses, and to make robots with mechatronics for the Kosen Robot Contest. It plays a very important role in helping students improve their skills and put them into practice.



5軸マシニングセンタ



炭酸ガスレーザー加工機

風洞実験棟

Wind Tunnel

風洞実験棟は、学内共同利用施設として、機械工学科の流体力学実験、卒業研究、専攻科での研究実験などに利用されています。風洞の仕様および付帯測定装置は、次のとおりです。

○風洞仕様

エッフェル型、開放・密閉双方可能,
測定部：1000×1000×2000mm, 風速範囲：1～30m/s,
X-Y-Z方向トラバース装置

○付帯測定装置

熱線風速計、PIVシステム、可視化煙発生装置、精密微小圧力測定器



The facility is shared by all the departments and mainly used for fluid dynamics experiments. Also it is used for graduation research of Department of Mechanical Engineering and Advanced Engineering course.

○Wind Tunnel Specifications

Eiffel-type, available for open and closed test section use. Test section: 1000×1000×2000mm, Velocity range : 1 ~ 30m/s, with X-Y-Z Traversing unit.

○Attached Measurement Apparatus

Hot wire anemometer, PIV system, smoke generator for visualization, high-precision micro manometer.

高電圧実験棟

High Voltage Laboratory

高電圧実験棟は一部3階建て、大部分が3階高さまでの吹き抜けホールという特徴のある建物です。1階ホールは高電圧実験室で交流(100kV)、直流(50kV)、インパルス(公称400kV)の各種高電圧を発生できる装置など、2階は送電工学実験室で実際の275kV送電線系統を模擬した装置など、3階は電力応用実験室で送配電線保護リレーや低周波磁界測定装置などがそれぞれ配備されています。主として電気工学科電力エネルギー工学関連の実験・研究を行っています。

The high voltage laboratory building is three stories high with an atrium. The first floor consists of equipment that can produce such high voltages as alternating current (100kV), direct current (50kV), and impulse (officially 400kV). On the second floor we have the power transmission laboratory with an apparatus modeled after the 275kV transmission system, and the third floor is the applied electricity laboratory, where we have a transmission protection relay and a low frequency magnetic field measuring instrument. In the high voltage laboratory we study and carry out experiments on electricity.



高電圧実験装置

福利施設

Welfare Facilities

福利厚生施設「養高館」

Welfare Building "Yoko-kan"

昭和 56 年 2 月に完成の複合厚生施設です。

館内には、食堂・売店をはじめとして、学生生活面での利便のみならず、文化活動の面においても幅広く利用されています。また、平成 16 年 4 月からは生活協同組合がスタートして福利厚生機能が強化された施設となっています。



The Yoko-kan building was completed in February, 1981. It has a cafeteria and a store designed for the benefit of the students and the staff. After a building renovation in 2011, it is planned to have rooms for club activities and a multipurpose room. In April, 2004, the univ. consumers' cooperative union was established, and the welfare of the students and the staff has been greatly improved.

合宿研修施設「自彊館」

Lodging House "Jikyo-kan"

健全な学生生活と豊かな人間性の育成を目的とする課外活動施設として、昭和54年1月に設置されました。

自炊可能な食堂やシャワー等、合宿研修に必要な諸設備が完備されており、長期休業期間中における課外活動等の合宿や研修に利用されています。



The Jikyo-kan building, which was completed in January, 1979, has facilities for club activities. It is used especially for training camps in the spring and summer vacations.

ゲストハウス

Guesthouse

本校が所有管理する津幡町横浜宿舎地内に、平成13年4月設置された宿泊等施設です。

当施設内には、談話室（収容人員18人）、洋室3部屋（ツインルーム）、自炊室、台所、浴室が設けられており、本校を訪れる非常勤講師や共同研究者の宿泊施設として、また、教員と学生とのミーティングや職員の会合等のために利用されています。



The guesthouse, which is located on the site of the Yokohama staff-housing facility of INCT, was constructed in April, 2001, as an accommodation facility for staff members of INCT, part-time lecturers, and visitors who come to INCT for lectures or research.

Outline of Facilities:

Rooms : one common room to accommodate 18 people and three Western style twin rooms.

Other facilities : kitchen, bath, restroom and small dining-kitchen.



学生寮「有朋寮」

Dormitory "Yuho-ryo"

本校の学生寮は「有朋寮」と名づけられており、有名な論語の一文「有朋自遠方來，不亦樂乎」に由来します。同じ志を持つ友達が親しく語り合い、集い合える寮生活を通して規律ある共同生活を送り、寮生相互の協力と信頼を築きあげて豊かな人間性を養うことを目的としています。遠距離かつ低学年の学生から入寮を認め、毎年新入寮希望者数によって更新審査があります。海寮、中寮、山寮、宙寮の4棟があり、男女合わせて約230名が寮生活を送っています。一部屋は1名から3名の部屋割りとなっており、海寮、山寮および宙寮の居室には学習机、椅子、ロッカー、ベッドが備えつけられています。また中寮は居室と自習室に分かれており居室にはロッカーとベッド、自習室には学習机と椅子が備えつけられています。さらに各棟フロアには共同利用スペースとしての談話室、補食室、コンピュータールームが、また別棟には食堂、浴室等が完備されています。平成22年に竣工した女子寮は、宙寮と呼ばれオール電化で浴室を棟内に設けています。

学生寮の運営は、学生寮担当教員指導のもと、寮生全員が加入する寮生会が自主的な活動を行い、年間を通して様々な行事を実施しており、まさに人間形成の場として位置づけられています。

The dormitory of National Institute of Technology, Ishikawa College is named "Yuho-ryo" which derives from a famous phrase in *Rongo*, " 有朋自遠方來，不亦樂乎。" It is a place to cultivate a sense of humanity, where mutual cooperation, confidence and close relationships between friends can be developed through communal efforts. Admissions are reallocated every year, giving priority to the lower-grade students residing outside the commuting distance. In total, 230 co-ed students are now living in dormitory at our college. It consists of four buildings and all of the rooms contain desks, chairs, private lockers, and beds. Besides a dinning hall and baths, each floor of the four buildings has a lounge, a kitchen, and a computer room.

The dormitories are managed by the student's committee under teachers' supervision. Various events are held throughout the year. The dormitory at the National Institute of Technology is considered to be a real place to cultivate a sense of humanity.



宙寮（女子寮）



寮生会主催の芋苗と花植え（4月末）

入寮状況 Current Number of Boarders

R5.5.1 現在

学年	1年		2年		3年		4年		5年		計	
学科\性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
機械工学科	14	1	7	1	10	1(1)	7		11(1)		49(1)	3(1)
電気工学科	8	2	5	3	7(1)		3	2	7	2	30(1)	9
電子情報工学科	6	4	5	4	13(1)	2	7(1)	4	6(1)	2	37(3)	16
環境都市工学科	5	5	6	4	3	6(1)		4	4		18	19(1)
建築学科	7	4	8	6	5	8	4(1)	2	2(1)	1	26(2)	21
計	40	16	31	18	38(2)	17(2)	21(2)	12	30(3)	5	160(7)	68(2)
合計	56		49		55(4)		33(2)		35(3)		228(9)	

()は外国人留学生で内数。また専攻科生は除く。

学生

Students



入学式

在学者数 Number of Students (定員：本科 1,000名，専攻科 40名)

R5.4.1 現在

区分	入学定員	収容定員	1年	2年	3年	4年	5年	学科・学年計
機械工学科 Mechanical Engineering	40	200	44 (5) [1]	41 (6)	41 (3) [1]	44 (3)	39 (3) [1]	209 (20) [2]
電気工学科 Electrical Engineering	40	200	43 (7)	45 (9)	37 (4) [1]	42 (5) [1]	41 (5)	208 (30) [2]
電子情報工学科 Electronics and Information Engineering	40	200	43 (9)	43 (7)	44 (9) [1]	43 (10) [1]	41 (10) [1]	214 (45) [3]
環境都市工学科 Civil Engineering	40	200	43 (23)	44 (18)	40 (22) [1]	43 (21)	42 (20)	212 (104) [1]
建築学科 Architecture	40	200	42 (23)	41 (19)	41 (23)	41 (24) [1]	43 (21) [1]	208 (110) [2]
計 Total	200	1,000	215 (67) [0]	214 (59) [0]	203 (61) [4]	213 (63) [3]	206 (59) [3]	1,051 (309) [10]

R5.4.1 現在

区分	入学定員	収容定員	1年	2年	専攻・学年計
電子機械工学専攻 Electronic and Mechanical Engineering Course	12	24	(5) 21	(3) 17	(8) 38 [0]
環境建設工学専攻 Architecture and Civil Engineering Course	8	16	(3) 9	(3) 10	(6) 19 [0]
計 Total	20	40	(8) 30 [0]	(6) 27 [0]	(14) 57 [0]

区分	合計
男子	785 [8]
女子	323 [2]
総合計	1,108 [10]

総合計には非正規生は含まない
() は女子, [] は外国人留学生で内数

奨学生 Number of Scholarship Students

R5.4.1 現在

学年 Year 区分	1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	専攻科 Advanced	計 Total
日本学生支援機構 Japan Student Services Organization			2	1	21	3	27
その他 Other		8	1	5	10		24
計 Total	0	8	3	6	31	3	51

外国人留学生 Number of International Students

R5.4.1 現在

学年 Year	学科 Department	マレーシア Malaysia	モンゴル Mongolia	インドネシア Indonesia	チュニジア Republic of Tunisia	カンボジア Kingdom of Cambodia	マリ Republic of Mali	計 Total
3	機械工学科	1(1)						1(1)
	電気工学科						1	1
	電子情報工学科		1					1
	環境都市工学科	1(1)						1(1)
4	電気工学科				1			1
	電子情報工学科	1						1
	建築学科					1		1
5	機械工学科	1						1
	電子情報工学科			1				1
	建築学科		1					1
	計	4(2)	2	1	1	1	1	10(2)

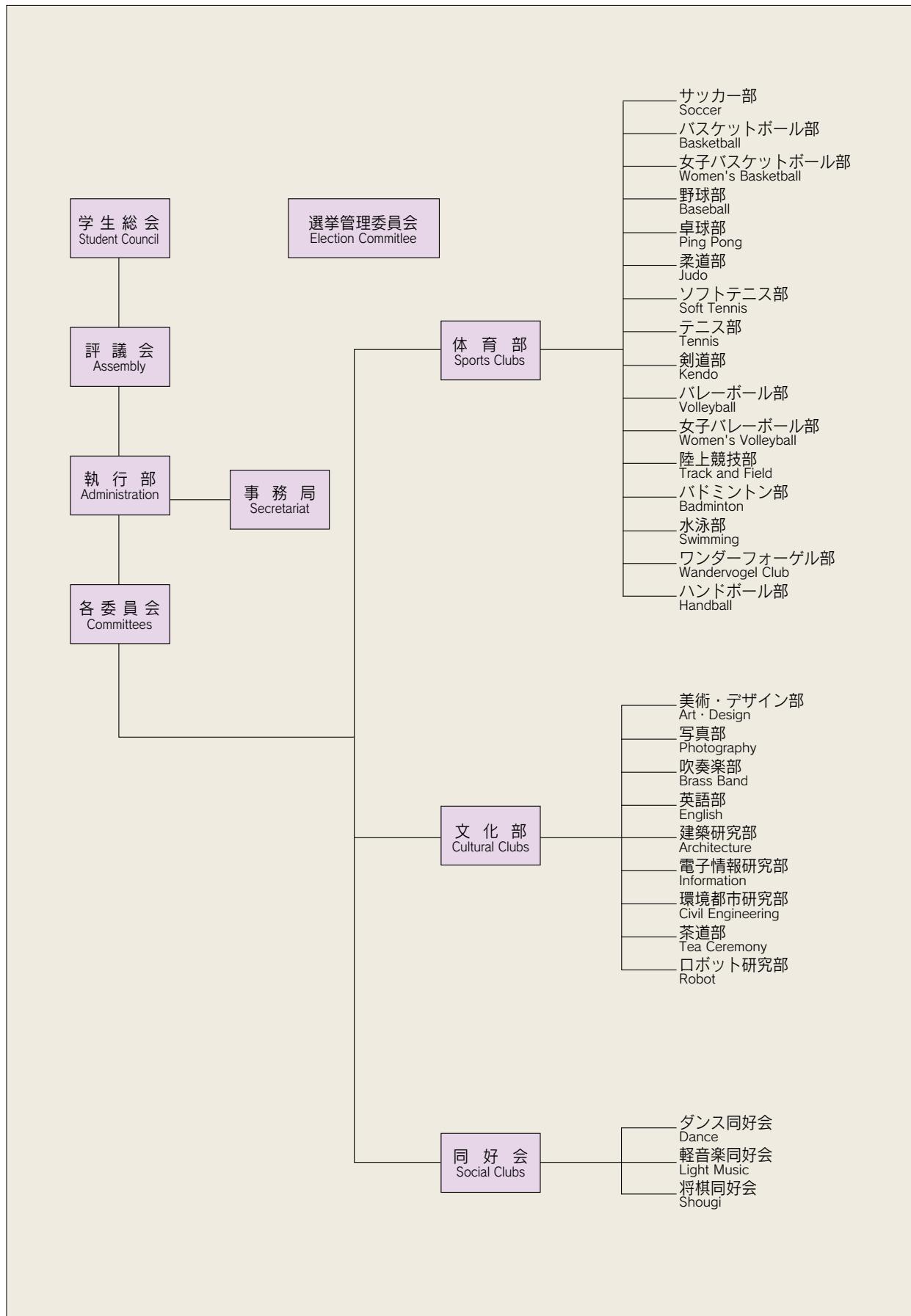
() は女子で内数

留学生受入状況 Foreign Exchange Students

受入年度 Year of Admittance	国費留学生 Nationally Sponsored	政府派遣 Govement Scholarship	計 Total
昭和 59 年度 1984 から 平成 30 年度 2018 まで	35	45	80
令和 元 年度 2019	1	2	3
令和 2 年度 2020	1	2	3
令和 3 年度 2021	1	2	3
令和 4 年度 2022	2	1	3
令和 5 年度 2023	2	2	4
計	42	54	96

学生会

Student Council



進路状況

Graduates

卒業者の進路状況 Courses after Graduation

R5.3.31 現在

区分	機械工学科			電気工学科			電子情報工学科			環境都市工学科			建築学科			計		
卒業年度	R2	R3	R4	R2	R3	R4	R2	R3	R4	R2	R3	R4	R2	R3	R4	R2	R3	R4
就職者数	21	20	23	27	25	25	18	22	16	30	33	26	21	30	23	117	130	113
進学者数	16	21	17	17	16	13	17	19	22	8	11	11	18	11	12	76	78	76
その他		1	2			1			1	1			2	1	3	3	2	6
計	37	42	42	44	41	39	35	41	39	39	44	37	41	42	38	196	210	195

修了者の進路状況 Courses after Completion

R5.3.31 現在

区分	電子機械工学専攻			環境建設工学専攻			計		
修了年度	R2	R3	R4	R2	R3	R4	R2	R3	R4
就職者数	11	14	11	8	6	12	19	20	23
進学者数	5	1	5	3			8	1	5
その他							0	0	0
計	16	15	16	11	6	12	27	21	28



卒業証書・修了証書授与式

産業別就職状況（令和4年度） Industrial Classification (2022)

R5.3.31 現在

学科 産業別	機械工学科	電気工学科	電子情報工学科	環境都市工学科	建築学科	計	専攻科		
							電子機械工学	環境建設工学	計
製造業	建設			17	19	36	1	9	10
	食品・たばこ					0			0
	金属製品・鉄鋼・非鉄				1	1			0
	印刷等					0			0
	一般機械	8	7	3		18	4	1	5
	電気機器	3	6	2		11	3	1	4
	電子機器	3	3	6		12	1		1
	輸送用機器	1				1			0
	精密機器					0			0
	化学・繊維	1	1			2			0
運輸・通信・情報		3	2	1	3	1	10		0
電気・ガス・水道		2	3		3	1	9		0
その他製造		2	2		1		5	1	1
サービス業・メンテナンス			1	4		1	6	1	1
公務員・教育学習支援					2		2		0
計		23	25	16	26	23	113	11	12
									23

都道府県別就職状況（令和4年度） Location of Companies (2022)

R5.3.31 現在

所求人企業地	石川県	富山県	栃木県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	山梨県	長野県	静岡県	愛知県	京都府	大阪府	兵庫県	広島県	計	
求人企業																2,623	
本科	就職企業数	26	3	1	1	45	2		1	1	1	9	1	9		101	
	機械工学科	5	3	1		6	1		1		1	3		2		23	
	電気工学科	3	2			11	2				3	1	3			25	
	電子情報工学科	5	2			7	1				1					16	
	環境都市工学科	7			1	13					1		4			26	
	建築学科	7				12			1		1		1	1		23	
計		27	7	1	1	49	4	0	1	1	1	9	1	10	0	1	113
専攻科	就職企業数	10				5	3	1						1	1		21
	電子機械工学	5				3	2	1									11
	環境建設工学	7				2	1						1	1			12
	計	12	0	0	0	5	3	1	0	0	0	0	0	1	1	0	23

教員の研究活動

Research Activities

科学研究費助成事業

Grants-in-Aid for Scientific Research

R5.4.30 現在

研究種目	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	件数	交付額(千円)	件数	交付額(千円)	件数	交付額(千円)	件数	交付予定額(千円)
基盤研究(B)	1	8,970	1	3,510	1	1,560		
基盤研究(C)	25	30,290	24	24,570	29	29,380	26	26,110
挑戦的萌芽研究	1	4,810	1	1,560				
若手研究(B)	2	0	2	0	1	0		
若手研究	7	10,400	6	4,030	9	3,770	8	3,380
研究活動スタート支援	1	1,430	1	0				
奨励研究	3	1,220	2	850	4	1,590	1	480
計	40	57,120	37	34,520	44	36,300	35	29,970

外部資金

Joint Research Projects, Commission Researches and Donations

研究種目	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	件数	受入額(千円)	件数	受入額(千円)	件数	受入額(千円)	件数	受入額(千円)
共同研究	18	6,177	13	3,826	21	5,482	19	8,402
受託研究	3	4,855	5	4,203	3	3,235	4	5,829
受託事業	1	500						
寄附金	23	10,881	16	12,456	18	16,485	28	27,486
計	45	22,413	34	20,485	42	25,202	51	41,717

内地研究員

Researches within the Country

年度	氏名	学科	研究期間	受入機関	研究題目
2007	越野亮	電子情報工学科	2007.10.9～2008.3.31	金沢大学	人工知能技術を用いた最適化の研究

在外研究員

Researches Abroad

年度	氏名	学科	渡航先国	研究先機関	渡航期間
2008	瀬戸悟	電気工学科	ドイツ連邦共和国	ブレーメン大学	2008.7.31～2009.1.31
2011	小村良太郎	電子情報工学科	アメリカ合衆国	米国農務省林野局北東部研究所	2011.10.9～2012.3.18
2012	河合康典	電気工学科	アメリカ合衆国	フロリダ大学	2012.9.23～2013.3.22
2014	岡本征晃	電気工学科	アメリカ合衆国	カリフォルニア大学サンディエゴ校	2014.10.1～2015.3.31
2015	富山正人	一般教育科	アメリカ合衆国	ウィスコンシン大学マディソン校	2016.3.31～2016.9.30
2016	船戸慶輔	建築学科	タイ王国	キングモンクット工科大学ラカバン校	2016.8.1～2016.8.30 2016.9.23～2017.3.9
2019	森原崇	建築学科	フランス共和国	ENTPE:Ecole Nationale des Travaux Publics de l'Etat	2019.10.1～2020.3.20

地域との連携

Regional Cooperation

石川工業高等専門学校技術振興交流会

NITIC Industry-Academia Exchange Association for Technology Promotion

本会は、石川高専の教育研究活動を支援し、会員相互並びに本校との連携・交流を深めて産業技術の振興、地域社会の発展に寄与することを目的として平成14年2月に設立されました。本校との共同研究、受託研究、受託試験等を通して、会員企業に対して総合的な技術振興協力をを行っています。

This association was founded in February 2002 to support education and research of our college and deepen the cooperation and interchange both among and between the member companies and our college with the aim of contributing to the development of industrial technology and the local community. It provides comprehensive technical assistance to member companies through joint research projects, commission researches and commission tests.

本校は、津幡町、内灘町、金沢市、加賀市と連携協定を締結し環境や町づくり、教育研究の諸分野で双方協力を行っています。

- ・津幡町 平成18年1月協定締結
- ・内灘町 平成20年5月協定締結
- ・金沢市 平成21年3月協定締結
- ・加賀市 令和4年3月協定締結

NITIC has signed agreements with Tsubata-town, Uchinada-town, Kanazawa-city, and Kaga-city to promote cooperation in research projects, as well as in the fields of environmental design, urban development, and education.

- ・Cooperation with Tsubata-town since January, 2006
- ・Cooperation with Uchinada-town since May, 2008
- ・Cooperation with Kanazawa-city since March, 2009
- ・Cooperation with Kaga-city since March, 2022



技術振興交流会 見学交流会



出前授業／ロボット教室

津幡町と石川工業高等専門学校の連携に関する協議会



津幡町／科学の祭典でのプログラミング体験コーナー



津幡町／津幡町商工会との連携事業「どまんなかフェスタ」

国際交流

International Exchange

学術交流協定

Academic Exchange Agreement

中国杭州職業技術学院（平成19年 1月）

Academic Exchange with Hangzhou Vocational & Technical College (HVTC), China
Jan. 2007.

中国大連職業技術学院（平成21年 7月）

Academic Exchange with Dalian Vocational & Technical College (DVTC), China
July. 2009.

中国大連工業大学（平成24年 6月）

Academic Exchange with Dalian Polytechnic University (DPU), China
June. 2012.

明新科技大学（平成28年10月）

Minghsin University of Science and Technology (MUST), Taiwan
Oct. 2016.

ハノイ建設大学（平成28年11月）

Hanoi University of Civil Engineering (HUCE), Vietnam
Nov. 2016.

国立嘉義大学理工学院（令和元年7月）

College of Science and Engineering, National Chiayi University (NCYU), Taiwan
July. 2019.

海外研修

Overseas Training



ヤクルト台湾工場見学



ダイキンエアコンディショニング社見学



バツウ洞窟での集合写真



マーライオン公園での集合写真

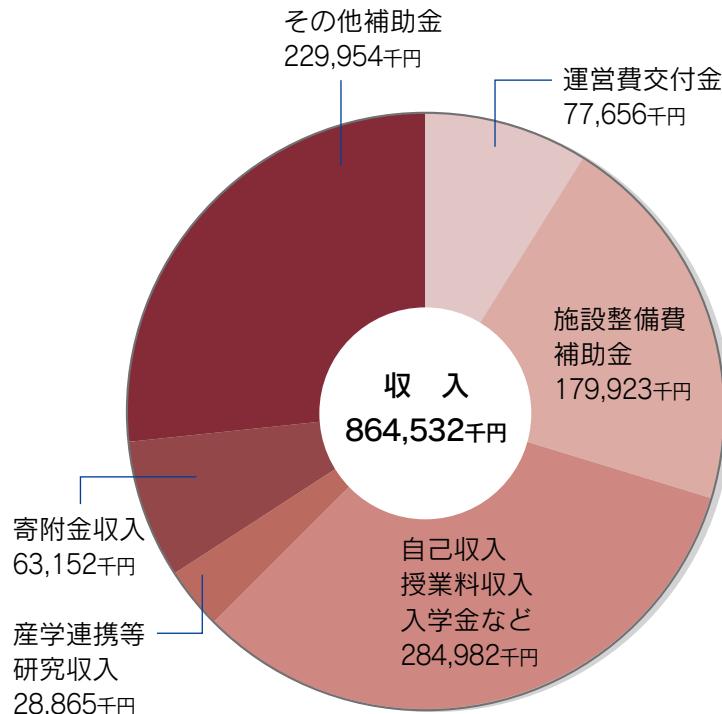


ハノイ建設大学との学術交流

財務

Finance

令和4年度決算(2022)

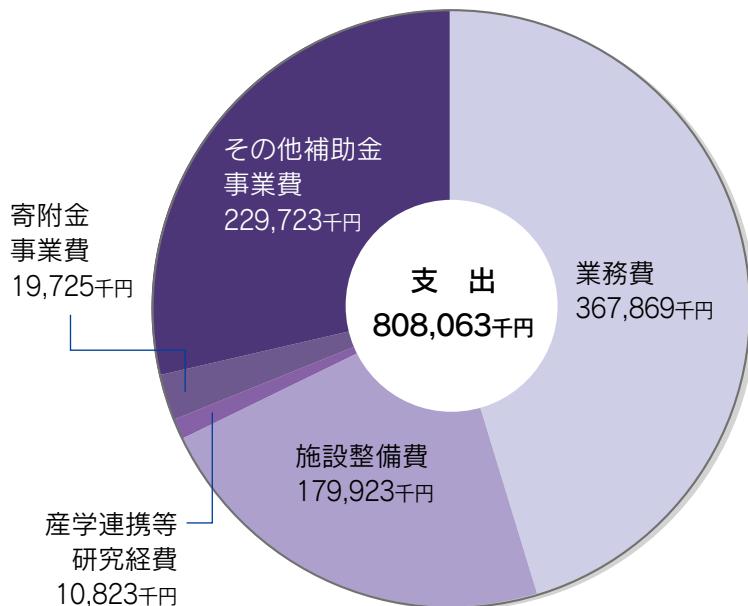


【収入】

(単位 : 円)

経費区分	計
運営費交付金	77,656,340
施設整備費補助金	179,922,600
自己収入 授業料収入 入学金など	284,982,057
産学連携等研究収入	28,865,020
寄附金収入	63,152,218
その他補助金	229,954,023
合 計	864,532,258

(注) 前年度からの繰り越しを含む



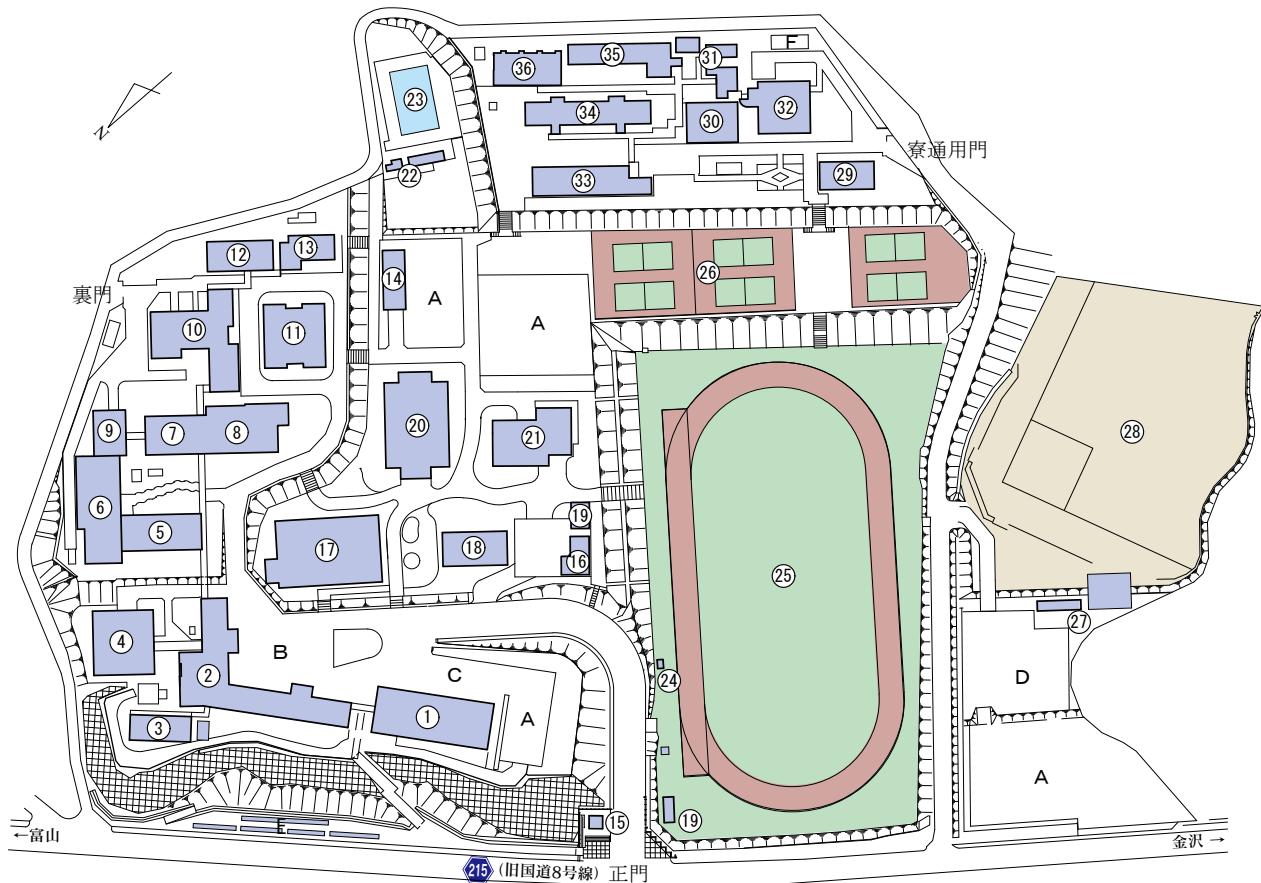
【支出】

(単位 : 円)

経費区分	計
業務費	367,868,871
施設整備費	179,922,600
産学連携等研究経費	10,823,183
寄附金事業費	19,725,136
その他補助金事業費	229,723,359
合 計	808,063,149

学校配置図

Campus Map



土地・建物

Land & Buildings

土地 Land

区分	面積(m²)
校舎敷地	50,083
学寮(寄宿舎)敷地	10,981
運動場敷地	37,456
横浜宿舎敷地	1,868
職員会館敷地	370
その他の	20,141
計	120,899

建物 Buildings

区分	面積(m²)	区分	面積(m²)	区分	面積(m²)	区分	面積(m²)	区分	面積(m²)		
① 1・2年教室、専攻科 トライアル研究センター (6号館)	16	車庫	32	学生寮食堂	堂	② 管理棟・一般教育科棟 (1号館)	17	第1体育館	33海		
③ サークル共用棟	18	道場	34中	④ 図書館	19	器具庫	35山	⑤ 機械工学科棟 (2号館)	20	第2体育館	36宿(そら)
⑥ 機械実習工場	21	福利施設(養高館)	21	一 ル	22	プール便所・更衣室	22	プール	23		
⑦ 電気工学科棟 (3号館)	24	屋外便所	24	屋外便所	25	陸上競技場	25	陸上競技場	26		
⑧ 環境都市工学科棟 (3号館)	26	テニスコート	26	テニスコート	27	体育器具庫・部室	27	体育器具庫・部室	28		
⑨ 高電圧実験棟	28	野球場	28	野球場	29	合宿研修施設(自強館)	29	合宿研修施設(自強館)	29		
⑩ 建築学科棟 (4号館)	30	学寮管理棟	30	学寮管理棟	31	学生寮浴室	31	学生寮浴室	32		
⑪ 電子情報工学科棟 (5号館)	33	駐車場(教職員用)	A	駐車場(教職員用)	33	駐車場(来校者用)	B	駐車場(来校者用)	34		
⑫ 情報戦略基盤センター	34	駐車場(非常勤講師用)	C	駐車場(非常勤講師用)	34	駐車場(専攻科生用)	D	駐車場(専攻科生用)	35		
⑬ 総合教育研究棟 (7号館)	35	自転車置場	E	自転車置場	35	自転車置場	F	自転車置場	36		
⑭ 風洞実験棟	36	寮生用	36	寮生用	36						
⑮ ゲートハウス	37										

交通アクセス

Access



○航空機をご利用の場合

小松空港→JR金沢駅まで高速バス	約1時間
能登空港→JR金沢駅までバス	約2時間
富山空港→JR富山駅までバス	約20分

○電車をご利用の場合

最寄駅:津幡駅	15分
金沢駅→IRいしかわ鉄道線(富山方面利用)	40分
羽咋駅→JR七尾線(金沢方面利用)	55分

○高速道路をご利用の場合

金沢東IC→国道8号線から県道215号線を 倅利迦羅・七尾方面に20分
金沢森本IC→山側環状(国道159号線)から県道215号線を 倅利迦羅・七尾方面に15分



津幡駅から石川高専へ徒歩で行く道筋



独立行政法人国立高等専門学校機構

石川工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Ishikawa College

〒929-0392

石川県河北郡津幡町北中条タ1

Kitachujo, Tsubata, Ishikawa 929-0392 JAPAN

TEL(代表) 076-288-8000

FAX 076-288-8014

URL <https://www.ishikawa-nct.ac.jp>

E-mail s-somu@ishikawa-nct.ac.jp